

2024 年度 教育課程

專 門 分 野

専 門 分 野

位 置 づ け

本分野は、基礎分野，専門基礎分野で得た知識・技術・態度を活用し，あらゆる健康レベル，あらゆる発達段階にある対象の看護の必要性を判断し，あらゆる医療活動の場においても，適切な方法で看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養うための領域として位置づける。

目 的

あらゆる健康レベル，あらゆる発達段階にある対象特性に応じて，看護の必要性を判断し，あらゆる場の状況に応じて，適切な方法で看護を実践するための看護実践能力を習得する。

2024 年度 教育課程

専門分野（基礎）

基礎看護学

構築の考え方

基礎看護学は、学生が看護について理解を深め、看護の専門性を追求するとともに、創造的・発展的に物事を考えられるような基礎的能力を養う領域として位置づける。

少子高齢化の問題、国民の健康に対する意識の高まり、また経済的な問題を背景に医療改革が進み、これに合わせて看護師の果たす役割・機能の拡大が顕著となり、その真価が問われる時代となった。看護師には、療養生活支援の専門家として、的確な判断と適切な看護技術の提供が求められている。

そこで基礎看護学においては、対象が必要とする看護の根拠を、看護理論や看護技術とのつながりの中で理解するとともに、看護師としての倫理観を培い、高度な看護実践の遂行に役立つ知識・技術、判断能力および調整能力を養う必要がある。

基礎看護学は、対象である人間と人間の生活についての理解が基盤となる。しかし、学習者の生活体験の乏しさに加え、日常生活の自立度が年々低下している。また、看護師は自ら考え、判断し、行動する能力が求められる。そこで、学生が強い関心と意欲をもって、能動的・主体的な学習に臨めるような工夫が必要となっている。

さらに現代は、医療の高度化・専門化が進む一方で、医療機関の入院期間は短縮し、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らすことを可能とする地域包括ケアシステムの構築が進んでいる。看護師には、対象を「生活者」の視点で捉え、場を問わず‘今・ここで’必要な看護を提供できる能力が求められている。

これらのことから、基礎看護学の授業科目は看護学概論、看護の基本となる技術Ⅰ～Ⅴ、日常生活援助技術Ⅰ～Ⅲ、健康状態別看護Ⅰ～Ⅲ、臨床判断の計15単位(375時間)ならびに看護の基礎となる施設実習Ⅰ・Ⅱ、看護実践実習、看護過程展開実習Ⅰ～Ⅲの計10単位(420時間)で構成し、合計単位数を25単位(795時間)とする。

看護学概論は、看護を学ぶ上での導入部分であり、看護の概念をとらえ、健康の社会的意義や看護の位置づけと役割の重要性について理解する。

看護の基本となる技術は、対象理解のための技術、対象に合わせた看護を実践するための看護過程展開の技術、人間関係成立のための技術、対象への教育的かわり技術について理解する。

日常生活援助技術は、健康的な日常生活行動を支援するための技術を理解・習得する。

健康状態別看護は、対象の健康障害の治療経過に合わせた看護や、診療の補助技術、対象の状態を的確に捉え、状況に合わせて判断・看護を実践する方法を理解する。

臨床判断では、「看護師が考えるように考える能力」の育成をめざし、「その時・その場」の状況に応じて、対象を観察・把握し、適切な看護を実践するための基礎的能力を養う。

看護の基礎となる施設実習Ⅰは、療養する場としての病院・病床と、療養する対象を理解するとともに、療養を支える支援者としての看護の役割と機能の概要を理解する。

看護の基礎となる施設実習Ⅱは、対象の状態や生活に気づき、コミュニケーションを図り、よりよい人間関係を構築する技術、対象の状態を把握するための観察技術を習得する。

看護実践実習は、医療を受ける対象を理解するとともに、対象の状態を把握し、対象に応じた日常生活援助技術を実践する能力を習得する。

看護過程展開実習Ⅰ～Ⅲでは、対象に応じた看護を実践するために、学習した看護過程展開の技術を適用し、問題解決技法の基礎を習得する。

基礎看護学

目 的

看護の対象である人間を理解し，看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を習得するとともに，保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する。

目 標

- 1 看護の対象や機能について理解するとともに，保健医療福祉の場における看護の役割の重要性を理解する。
- 2 看護実践に必要な基本的看護技術を習得する。

基礎看護学科目構造

		(授業科目)	(内容)
基礎看護学 15 単位	看護学概論	1単位(30時間)	看護の概念と変遷, 看護理論 看護の対象(人間・家族) 健康の概念 看護活動の場と看護の機能と役割 保健医療福祉の連携・協働 看護行政 看護職員の養成・教育
	看護と倫理	1単位(15時間)	専門職と倫理 看護の倫理原則 倫理的課題への対応
	看護の基本となる技術 I	1単位(30時間)	看護技術の概念 バイタルサイン測定の技術
	看護の基本となる技術 II	1単位(30時間)	フィジカルアセスメントの技術
	看護の基本となる技術 III-1	1単位(15時間)	ゴードンの看護過程の考え方と展開方法 (看護過程の展開:理論編)
	看護の基本となる技術 III-2	1単位(30時間)	看護過程の展開演習 (看護過程の展開:実践編)
	看護の基本となる技術 IV	1単位(15時間)	コミュニケーション技術
	看護の基本となる技術 IV	1単位(15時間)	指導技術
	日常生活援助技術 I	1単位(30時間)	環境を整える技術 清潔を整える援助技術(衣生活含む)
	日常生活援助技術 II	1単位(30時間)	活動・休息を整える援助技術 食事を整える援助技術
	日常生活援助技術 III	1単位(30時間)	排泄を整える援助技術
	健康状態別看護 I	1単位(30時間)	経過別看護
	健康状態別看護 II	1単位(15時間)	診療の補助技術:治療処置に伴う看護
	健康状態別看護 III	1単位(30時間)	状況設定演習 I
	臨床判断	1単位(30時間)	

科目名	看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	川那子 清美 (実務経験のある教育者：看護師)						
ねらい	「看護とは何か」を概念的に捉え、健康の社会的意義、看護の位置づけと看護の機能と役割を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～3回	1 看護の概念 1) 看護の語源 2) 看護の概念の変遷 3) 看護の定義 4) 看護であること・看護でないこと (ナインゲール) 2 看護の変遷 (看護の歴史) 1) 看護の起こり 2) 宗教による看護 3) 職業的看護のめばえ 4) 職業的看護 5) 看護の専門職化 (教育制度等)						講義 GW
4～6回	3 看護理論 1) 理論の意味 (看護実践の理論知と実践知) 2) 理論の分類 (1)大理論 (2)中範囲理論 (3)小範囲理論 4 さまざまな看護理論 1) V. ハンダーソン 2) A. ウィーデンバック 3) J. トラベルビー 4) H. ペプロー 5) S. カリスタ・ロイ 6) D. オレム						講義 GW
7～9回	5 生活統合体としての人間 1) 人間の成長と発達 (1)成長・発達の一般的原則 (2)発達段階・発達課題 2) 環境の変化と対処機制 3) 人間の欲求：マズローの基本的欲求階層論 4) ストレスと適応 5) 疾病, 障害の受容過 6 看護の対象としての家族 1) 家族の機能 (家族関係, 家族形態の変化, 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響) 7 健康の概念 1) 健康の概念と健康観の変遷 (1)健康の定義 (2)健康の概念 (3)健康の位置づけ (4)障害の定義 (5)主観的健康と客観的健康 (6)健康と疾病の関係 2) 健康とその影響要因 ・生活環境・生活行動・習慣・労働						

10～12回	<p>8 看護活動の場</p> <p>1) 医療提供施設 ・病院 ・診療所 ・助産所 ・介護老人保健施設</p> <p>2) 保健所・市町村保健センター</p> <p>3) 地域・在宅 ・在宅看護・訪問看護ステーション ・介護保険施設 ・地域包括支援センター</p> <p>9 看護活動の場における看護の機能</p> <p>1) 医療施設における看護活動 ・病院における看護活動 ・保健福祉施設における看護活動 ・チーム医療における看護職の役割・活動</p> <p>10 看護の機能と役割</p> <p>1) 看護の法的規定 ・保健師・助産師・看護師・准看護師</p> <p>2) 看護師の独自機能</p> <p>3) 看護業務</p> <p>11 保健医療福祉の連携・協働</p> <p>1) 他職種との役割</p> <p>2) 他職種との連携・協働</p> <p>3) チームアプローチの概念</p>	講義 GW
13～15回 (45分)	<p>12 看護行政</p> <p>1) 看護行政の組織</p> <p>2) 看護にかかわる診療報酬</p> <p>3) 看護職員の確保</p> <p>4) 看護職員の労働環境</p> <p>13 看護職員の養成・教育</p> <p>1) 学校における看護教育</p> <p>2) 現任教育と院内教育</p> <p>3) 看護師のキャリア形成</p> <p>4) 看護職員の各種資格と活動 (認定看護師・専門看護師・特定行為研修制度等)</p> <p>5) これからの看護教育</p>	講義 GW
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験 レポート GW	} 等総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	系統看護学 専門Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論 (医学書院) V. アンダーソン 看護の基本となるもの F. ナイтингール 看護覚え書き	
参考資料	授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・サブテキスト等を予習(読んで出席)するような指示が出るので、指示されたことに対しては誠実に取り組むこと。 ・グループワークを複数回実施するので、積極的に参加すること。 ・課題レポート等は提出期限を厳守のうえ、表紙をつけて提出すること。	

科目名	看護と倫理						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	本校職員（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	職業倫理としての看護倫理と、倫理的看護実践のための倫理原則・倫理概念を理解し、倫理的感受性を培い、基本的倫理観を養う。						
回数	内 容					授業形態	
1回	1 看護倫理を学ぶ意義 2 専門職と職業倫理（看護倫理） 看護職の倫理綱領					講義	
2回	3 看護の倫理原則						
3回	4 看護実践上の倫理概念						
4回	5 倫理的感受性と倫理的看護実践						
5～7回	6 倫理的課題と倫理的ジレンマ 倫理的課題発見 倫理的課題に対する対応					講義 GW	
(45分)						試験	
評価方法 及び観点	筆記試験 GWへの参加度 個人ワーク レポート } 総合的に評価する。						
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学① 看護学概論（医学書院） 別巻 看護倫理（医学書院）						
参考資料	・講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・看護職の倫理について深く考え、積極的に探究する姿勢を望む。・グループワークで意見交換をおこなうので、積極的に参加すること。						

科目名	看護の基本となる技術Ⅰ（バイタルサイン）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	早瀬 恵子（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	対象の状態を把握するための観察技術並びに対象の生命徴候を把握するためのバイタルサインを正しく測定する技術を習得する。						
回数	内 容						授業形態
1 回 (45 分)	1 看護技術の概念 1) 技術の意味 2) 技術の種類・分類 3) 技術の成立過程 4) 技術の身につけ方						講義
2～4 回	2 看護におけるヘルスアセスメント 3 フィジカルアセスメントの技術 1) フィジカルアセスメント基本技術 2) フィジカルイグザミネーションの基本技術 ①問診 ②視診 ③触診 ④打診 ⑤聴診						
5 回	胸部の聴診						技術練習
6～10 回	4 バイタルサイン 1) バイタルサインの定義 2) バイタルサインの目的・意義 3) バイタルサインの観察とアセスメント 5 バイタルサインのアセスメント 1) 体温のアセスメント 2) 脈拍のアセスメント 3) 血圧のアセスメント 4) 呼吸のアセスメント 5) 意識状態のアセスメント						講義
11・12 回	バイタルサインの測定						技術練習
13・14 回	バイタルサインの測定（瞳孔・意識レベルの観察含む）						演習
15 回 (45 分)	6 身体計測 1) 体格 2) 運動機能						講義 試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト)	系統看護学 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護が見える③ フィジカルアセスメント（メディックメディア） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ガブテキスト等を予習（読んで出席）するような指示が出た場合は、指示されたことに対して、誠実に取り組み、必ず指示を厳守すること。 ・看護技術の演習には、講義で使用した資料やテキストの該当箇所を復習して臨むこと。 ・講義内で技術練習時間を設けているが、主体的に各自練習をすること。 ・演習時間は限られているので、主体的に参加することを臨む。また、わからないことは、練習時間や演習時に担当教員に積極的に質問し、技術習得に努めること。 						

科目名	看護の基本となる技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	稲葉 奈緒美（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	対象の状態を把握するためのフィジカルアセスメントと、看護に活かすためのフィジカルアセスメント技術を習得する。						
回数							授業形態
1～3回	1 系統的なフィジカルアセスメントと看護 1) 呼吸に関連する症状を示す対象への看護 (1) 呼吸器のフィジカルアセスメント (2) 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 低酸素血症・高炭酸ガス血症・呼吸困難・咳嗽・喀痰 チアノーゼ (3) 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント (4) 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ充足に向けた看護援助 ① 酸素療法 ② 肺痰ケア：体位ドレナージ						講義
4～6回	2) 循環に関連する症状を示す対象への看護 (1) 循環器系のフィジカルアセスメント (2) 循環障害に関連する症状のメカニズム 胸痛・易疲労感・動悸・不整脈・失神・ショック・浮腫・血圧異常 (3) 循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント (4) 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 ① 腓腹筋の収縮運動						講義
7回	3) 栄養や代謝に関連する症状を示す対象への看護 (1) 腹部のフィジカルアセスメント (2) 栄養・代謝障害に関連する症状のメカニズム (3) 栄養・代謝障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント (4) 栄養・代謝障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 ① 咀嚼・嚥下障害 等						講義
8回	腹部のアセスメントの実際						演習
9回	4) 安楽に関連する症状を示す対象への看護 (1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント (2) 安楽に関連する症状のメカニズム (3) 安楽に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント (4) 安楽に関連するニーズ充足に向けた看護援助 ①疼痛 ②嘔気・嘔吐 ③ポジショニング						講義

科目名	看護の基本となる技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	稲葉 奈緒美（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	対象の状態を把握するためのフィジカルアセスメントと、看護に活かすためのフィジカルアセスメント技術を習得する。						
回数							授業形態
1～3回	1 系統的なフィジカルアセスメントと看護 1) 呼吸に関連する症状を示す対象への看護 (1) 呼吸器のフィジカルアセスメント (2) 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 低酸素血症・高炭酸ガス血症・呼吸困難・咳嗽・喀痰 チアノーゼ (3) 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント (4) 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ充足に向けた看護援助 ① 酸素療法 ② 肺痰ケア：体位ドレナージ						講義
4～6回	2) 循環に関連する症状を示す対象への看護 (1) 循環器系のフィジカルアセスメント (2) 循環障害に関連する症状のメカニズム 胸痛・易疲労感・動悸・不整脈・失神・ショック・浮腫・血圧異常 (3) 循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント (4) 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 ① 腓腹筋の収縮運動						講義
7回	3) 栄養や代謝に関連する症状を示す対象への看護 (1) 腹部のフィジカルアセスメント (2) 栄養・代謝障害に関連する症状のメカニズム (3) 栄養・代謝障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント (4) 栄養・代謝障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 ① 咀嚼・嚥下障害 等						講義
8回	腹部のアセスメントの実際						演習
9回	4) 安楽に関連する症状を示す対象への看護 (1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント (2) 安楽に関連する症状のメカニズム (3) 安楽に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント (4) 安楽に関連するニーズ充足に向けた看護援助 ①疼痛 ②嘔気・嘔吐 ③ポジショニング						講義

科目名	看護の基本となる技術Ⅲ-1（看護過程の展開：理論編）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	本校職員（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	看護の基本となる科学的根拠に基づく看護を実践する能力を習得するため、看護過程の考え方とアセスメントの枠組みのゴードンの機能的健康パターンを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1 回	1 看護過程とは 1) 看護過程とは何か 2) 看護過程の5つの構成要素 3) 問題解決過程と人間関係過程 2 看護過程を展開する際の基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) リフレクション 3 看護過程を用いることの利点						講義 GW
2～7回	4 看護過程の各段階 1) アセスメント ・代表的なアセスメントの枠組みと看護理論 ゴードンの機能的健康パターンの概要を含む 2) 問題の明確化（看護診断） 3) 看護計画の立案 4) 実施 5) 評価 5 看護記録 6 看護過程まとめ						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験 GW 課題の提出状況・内容レポート						総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	系統看護学 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護過程の解体新書（学研） 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（照林社） ゴードンの看護診断マニュアル（医学書院） 症状別看護過程（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・この科目では、看護過程の基本的な考え方について学ぶため、各自が「考える」ことを重視す。看護過程の思考過程を身につけられるよう、教科書や参考資料、配布資料を用いながら、主体的に講義に取り組むこと。 ・演習には積極的な参加を期待する。						

科目名	看護の基本となる技術Ⅲ-2（看護過程の展開：実践編）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	本校職員（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	ゴードンの機能的健康パターンのお考え方の理解をもとに、事例をとおして、看護の基本となる科学的根拠に基づく看護を実践するための看護過程展開能力を習得する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 ゴードンの健康的機能パターンへの理解 1) 各パターンの定義 2) 各パターンのアセスメントをするために必要な基礎知識 3) 各パターンのアセスメントの視点						講義 個人ワーク GW
5～15回	2 事例展開 1) 事例展開に取り組むための基礎知識 2) 看護過程の各段階 (1) アセスメント ・アセスメントの実際 ・看護上の問題の優先順位 ・関連図 (2) 問題の明確化 ・看護診断の確定 (3) 計画の立案 ・目標・期待される成果の設定 ・看護計画の立案 (4) 実施 ・実施と記録 (5) 評価 3 看護過程のまとめ						
評価方法及び観点	GWへの参加状況 課題への取り組み姿勢 課題の提出状況・内容 レポートの内容						総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	看護過程の解体新書（学研） 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（照林社） ゴードンの看護診断マニュアル（医学書院） 症状別看護過程（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・この科目では、事例展開を行いながら看護過程の理解を深めていく。そのため、各自が「考える」ことを重視す。看護過程の展開：理論編やこれまで学んだ知識を活用しながら積極的に考え、看護の思考過程を身につけていくことを期待する。 ・この科目では、課題の提出状況や課題の内容だけでなく、学習に取り組む姿勢も含めて評価を行う。講義や学習には主体的に取り組むことを期待する。						

科目名	看護の基本となる技術Ⅳ（接遇・コミュニケーション技術）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	1年
担当者名	鯉淵 久子（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	看護実践の基礎となる良好な人間関係構築のための接遇や、技術としてのコミュニケーションを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1回	1 看護・医療におけるコミュニケーション 1) 人間にとってのコミュニケーションの意義 2) 看護・医療におけるコミュニケーションの目的と特徴 3) 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性 2 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 接近的コミュニケーションの基本となる態度 (1) あいさつ (2) 身だしなみ (3) 言葉遣い (4) 立ち居振る舞い・視線						講義 GW
2・3回	看護としての接遇						演習
4回	2) 接近的行動と非接近的行動 3) 効果的なコミュニケーションの実際 (1) 傾聴の技術 (2) 情報収集の技術 (3) 説明の技術 (4) アサーティブネス						講義 GW
5・6回	意図的なコミュニケーション (聴きたいこと・知りたいことを気持ちよく尋ねる)						演習 ロールプレイ
7回	3 コミュニケーションに障害がある対象への対応 1) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 2) コミュニケーション障害のある対象への対応						講義
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験 GW・演習への参加態度 レポート課題						総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論 (医学書院) 患者とのコミュニケーション (サイオ出版) 看護コミュニケーション (第2版) (医学書院) 医療接遇とコミュニケーション (日本看護学校協議会共済会)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・コミュニケーションの授業のGWには積極的に参加する姿勢を望む。・コミュニケーション技術は「心理学」「人間関係論」の予習・復習をして臨む。						

科目名	看護の基本となる技術V（指導技術）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	本校職員（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	対象の健康の保持・増進や健康の回復並びに疾病の予防のためにおこなう教育・指導技術を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 看護における学習支援 1) 看護における学習支援とは何か 2) 看護師の役割としての学習支援 2 健康に生きることを支える学習支援 3 学習支援に活用される健康行動理論 1) コンプライアンスとアドヒアランス 2) 健康行動の理論計画的行動理論 3) 健康信念モデル（ヘルス・ビリーフ・モデル） 4) 自己効力感（セルフ・エフィカシー） 5) 社会的支援（ソーシャルサポート） 6) 変容変化のステージモデル 7) ストレスとコーピング 8) コントロール所在						講義
3回	3 学習支援の進め方 1) 学習ニーズのアセスメント 2) 指導計画と実施 (1)指導計画書の作成 (2)個別指導と集団指導 (3)指導方法と指導用具						
4・5回	4 学習支援の実際 1) 指導計画の立案						GW
6・7回	2) 指導の実際 3) 評価						演習 ロールプレイ
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験 GW・演習への参加態度 レポート課題						総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論（医学書院） 看護のための教育学（医学書院） <参考図書> 中範囲理論入門（日総研）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・基礎分野「教育学」を復習して臨む。 ・指導計画を立て、ロールプレイで実践してもらっているので、積極的な参加姿勢を望む。						

科目名	日常生活援助技術Ⅰ（環境を整える・清潔を整える技術）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	1年
担当者名	稲葉 奈緒美（実務経験のある教育者：看護師） 上田 麻衣子（ // ）						
ねらい	健康の保持・増進や疾病の回復に向けて，日常生活行動（環境調整・清潔）の援助を実施するための基礎的知識と技術を習得する。						
回数	内 容						授業形態
<環境> 1・2回	Ⅰ 環境を調整する技術 1 援助の基礎知識 1) 人と環境 2) 療養生活と環境 3) 生活環境の調整 2 病室と環境の調整 1) 病室・病床の選択 2) 温度・湿度 3) 光と音 4) 色彩 5) 空気の清浄とにおい 6) 人的環境 3 援助の実際 1) ベッド周囲の環境 2) 病床を整える技術 (1) マットレス・枕の条件 (2) ベッドメイキング (3) リネン交換						講義
3回	臥床患者のリネン交換						演習
4回	臥床患者のリネン交換						演習
<清潔> 1回	Ⅱ 清潔の援助技術 1 清潔の援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜・口腔内の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 患者の状態に応じた援助選択の視点と留意点 2 清潔援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 2) 部分浴：手・足浴						講義
2回	足浴						技術練習
3回	足浴						演習
4回	3) 洗髪 4) 整容 5) 口腔ケア						講義
5・6回	洗髪と整容						演習
7回	6) 全身清拭 7) 陰部洗浄 3 衣生活の援助 1) 衣服の援助の基礎知識 (1) 意義 (2) 熱産生と熱放散・衣服気候・衣服のニーズ 2) 病衣・寝衣の交換の実際						講義

8・9回 (45分)	全身清拭と寝衣交換	技術練習
10・11回 (45分)	全身清拭と寝衣交換	演習 試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)	
参考資料	授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の演習には、講義で使用した資料やテキストの該当箇所を復習して臨む。 ・技術練習前には指定のDVD学習のうえ、主体的に臨む。さらに、演習で確認したい課題を明確にする。 ・演習時間内に実施できない場合は、自己学習時間で練習を行う。 ・積極的に授業及び演習に参加し、技術の修得に努める。 	

科目名	日常生活援助技術Ⅱ（排泄を整える技術）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	1年
担当者名	皆川 かおり（実務経験のある教育者：看護師）						
ねらい	健康の保持・増進や疾病の回復に向けて、日常生活行動（排泄）の援助を実施するための基礎的知識と技術を習得する。						
回数	内 容					授業形態	
1回	1 人間にとっての排泄 2 排泄のイメージと看護師に求められる基本姿勢 3 排泄のメカニズム 4 排泄に影響を及ぼす因子 5 排泄の観察とアセスメント					講義	
2回	6 トイレにおける排泄の介助 7 床上排泄の援助						
3・4回	尿器・便器の取扱い 尿器便器を用いた排泄の援助					演習 技術練習	
5回	8 オムツによる排泄の援助 1) 床上排泄の対象理解 2) 失禁のある対象理解					講義	
6・7回	陰部洗浄とオムツ交換					演習	
8・9回	陰部洗浄とオムツ交換（下衣交換含む）					技術練習	
10回	9 排便障害のある対象の援助 1) 便秘改善のための看護援助 2) 浣腸・摘便					講義	
11・12回 (45分)	浣腸					演習	
13回	10 排尿障害のある対象の援助 1) 排尿障害のメカニズム 2) 排尿障害への援助：一次的導尿と持続的導尿 3) 持続的導尿の管理					講義	
14・15回 (45分)	一次的導尿					演習	
(45分)						試験	
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の演習には、講義で使用した資料やテキストの該当箇所を復習して臨む。 ・演習・技術練習前には指定のDVD学習のうえ、主体的に臨む。さらに、演習で確認したい課題を明確にしたうえで臨むこと。 ・演習時間内に実施できない場合は、自己学習時間で練習を行う。 ・積極的に授業及び演習に参加し、技術の修得に努める。 						

科目名	日常生活援助技術Ⅲ（活動・休息を整える技術，食事を整える技術）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	半村 博美（実務経験のある授業科目：看護師） 稲葉 奈緒美（実務経験のある教育者）						
ねらい	健康の保持・増進や疾病の回復に向けて，日常生活行動（活動・食事）の援助を実施するための基礎的知識と技術を習得する。						
回数	内 容					授業形態	
<活動休息> 1回	Ⅰ 活動・休息を整える看護技術 1 活動と休息の意義					講義	
2・3回	2 活動への援助：ボディメカニクス・体位変換の技術					DVD 学習	
4回	3 苦痛の緩和・安楽の確保の技術 電法					講義	
5回	4 褥創の予防						
6回	5 運動機能の低下した対象への援助技術					講義・GW	
7～9回 (45分)	6 体位変換 移乗・移送・歩行の介助 の実際					演習	
10回	7 睡眠・休息の援助					講義	
<食事> 1回	Ⅱ 食事を整える看護技術 1 食事援助の基礎知識					講義	
2回	2 食事摂取の介助					演習	
3回	3 食事摂取の介助の実際						
4回	4 非経口的栄養摂取の援助					講義	
5回	5 非経口的栄養摂取の援助の実際 - 経管栄養法 -					演習	
(45分)						試験	
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・看護技術の演習には，講義で使用した資料やテキストの該当箇所を復習して臨む。 ・技術練習前には指定の DVD 学習のうえ、主体的に臨む。さらに、演習で確認したい課題を明確にする。・演習時間内に実施できない場合は，自己学習時間で練習を行う。・積極的に授業及び演習に参加し、技術の修得に努める。						

科目名	健康状態別看護Ⅰ（経過別看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	健康障害の経過に伴って生じる対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、健康回復に向けた医療の経過に応じた看護を理解する。また、対象の年齢による特徴を踏まえた健康障害の経過に応じた看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
急性期 1回	1 急性期における看護 1) 急性期とは (1) 急性期の特徴 (2) 急性期の患者のニーズ (3) 急性期にある患者への援助						講義
2・3回	2 周術期の看護 1) 手術療法の看護と目的 2) 手術療法による生体侵襲と侵襲刺激に対する生体反応 3) 手術前の看護 4) 手術中の看護 5) 手術後の看護 6) 周術期における対象別看護 (1)小児の周術期看護 (2)高齢者の周術期看護						
4回	3 集中治療看護 1) 集中治療・看護の役割 2) 集中治療室における看護の実際						
回復期 1回	4 リハビリテーション期の看護 1) リハビリテーション期とは 2) リハビリテーション医療の特徴 3) リハビリテーション期の患者のニーズ (1)ICFによる障害の分類 (2)障害受容のプロセス (3)障害受容への影響因子 (4)身体的ニーズ 身体可動性障害とセルフケア不足生活再構築へのニーズ (5)心理的ニーズ 自己概念の混乱, 自己尊重に対するニーズ (6)社会的ニーズ						
2回	4) リハビリテーション期にある対象と家族への看護 (1)身体可動性障害とセルフケア不足に対する援助 (2)心理・社会的な援助 障害受容への援助（障害の受容過程に応じた支援） (3)生活の再構築に向けた援助						講義 GW

3・4回	<p>5) 退院支援の援助技術</p> <p>(1)療養の場の移行に伴う看護援助の必要性</p> <p>(2)退院支援の実際</p> <p>(3)退院支援活動</p> <p>6) リハビリテーション期における対象別看護</p> <p>(1)小児のリハビリテーション期看護</p> <p>(2)高齢者のリハビリテーション期看護</p>	講義
慢性期 1回	<p>5 慢性期の看護</p> <p>1) 慢性期とは</p> <p>2) 慢性期治療の特徴</p> <p>(1)病とともに生きる対象と家族</p> <p>(2)生活習慣・ライフスタイルの変更・調整</p> <p>3) 慢性期の経過をとらえる視点</p> <p>4) 慢性期の患者のニーズ</p> <p>(1)セルフケア</p> <p>(2)健康障害を受容すること</p> <p>(3)自分らしく生きること</p>	講義
2回	<p>5) 慢性期にある対象への援助</p> <p>(1)セルフケア獲得に向けた支援</p> <p>(2)セルフケア行動継続への支援</p> <p>(3)セルフケアに適した環境の調整</p> <p>(4)社会的支援の獲得への援助</p> <p>(1)家族・患者会への支援</p> <p>(2)特定疾患治療研究事業の適用</p> <p>(3)社会資源の活用</p> <p>6) 慢性期における対象別看護</p> <p>(1)小児の慢性期看護</p> <p>(2)成人の慢性期看護</p> <p>(3)高齢者の慢性期看護</p>	講義 GW
終末期 1回	<p>5 終末期の看護</p> <p>1) 終末期とは</p> <p>2) 終末期医療の特徴と現状</p> <p>3) 終末期の患者と家族のニーズ</p> <p>(1)身体的ニーズ</p> <p>疼痛のメカニズムと疼痛コントロール</p> <p>(2)心理的・社会的ニーズ</p> <p>全人的苦痛（トータルペイン）</p> <p>(3)社会的ニーズ</p> <p>(4)自分らしく生き抜く</p> <p>(5)満足ゆく看取りへのニーズ</p>	講義
2回	<p>4) 終末期にある対象への援助</p> <p>(1)エンドオブライフケア</p> <p>(2)状態に合わせた日常生活の援助</p> <p>(3)症状に関する苦痛への援助</p> <p>(1)症状のメカニズムと症状マネジメント</p> <p>(2)疼痛コントロール</p> <p>(3)ACP:アドバンスケアプランニング</p> <p>(4)心理的安寧への援助</p>	

3回	5) 終末期にある対象の家族への援助 (1)家族の心理の理解とケア 死の準備教育：デスエデュケーション (2)家族へのグリーフワーク・グリーフケア (3)家族の生活の再構築へのケア	
4・5回 (45)	6) 終末期における対象別看護 (1)小児の終末期看護 (2)成人期の終末期看護 (3)高齢者の終末期看護：意思決定支援	
(45分)		試験
評価方法 及び観点	筆記試験 GW参加度 レポート	総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 (医学書院) 専門Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 (医学書院) 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院) <急性期> 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) <終末期> 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)	
参考資料	授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習をして臨むこと。 ・科目内容が細分化され、複数の講師が担当するので、出席管理は辞管理のうえ、欠席しないように体調を整え、授業の臨むこと。 ・各看護学領域の経過別看護に通ずる科目のため、積極的な授業姿勢を望む。 	

科目名	健康状態別看護Ⅱ（診療の補助技術：治療処置に伴う看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	本校職員（実務経験のある教育者）						
ねらい	健康障害や診察・治療の経過に応じた対象の特徴を理解し、回復の促進に向けて、それらに応じた看護が実践できる基礎的知識を理解する。また、対象の診察・検査・治療の意義や目的を理解し、それらに伴う対象への看護技術を習得する。						
回数	内 容						授業形態
1回	1 診察・検査・処置における技術 1) 診察の介助の目的 2) 診察時の看護師の役割 3) 診察時の体位と介助 2 検査の特徴と理解 1) 検体の採取とその取扱い ①血液検査 ②尿検査 ③便検査 ④喀痰検査						講義
2回	真空採血管を用いた静脈血採血						演習
3回	2) 検査に伴う看護 ①X線検査 ②コンピューター断層撮影 (CT) ③磁気共鳴画像 (MRT) ④内視鏡検査：上・下部消化管 ⑤超音波検査 (エコー検査) ⑥心電図検査 ⑦核医学検査 3 生体情報のモニタリング 1) 生体情報のモニタリングの意義 ①心電図モニター ②Spo2モニター (パルスオキシメーター) ③血管留置カテーテルモニター						講義
4回	4 穿刺・洗浄の意義と理解 1) 穿刺の意義 2) 穿刺の種類 ①胸腔穿刺 ②腹腔穿刺 ③腰椎穿刺 ④骨髄穿刺						
5回	3) 洗浄の意義 4) 洗浄の種類 ①胃洗浄 ②気管支洗浄						
6～7回	5 創傷治癒の看護 1) 創傷治癒の経過・促進 ①創傷治癒のための環境づくり ②創傷処置 (創洗浄・創保護) ③創傷管理技術 (包帯法) 2) ドレーンの管理 ①ドレーン創の処置 ②テープによる皮膚障害 (テープ固定)						試験
(45分)							
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・看護技術の演習には、講義で使用した資料やテキストの該当箇所を復習して臨む。 ・演習前には指定のDVD学習のうえ、主体的に臨む。さらに、演習で確認したい課題を明確にしたうえで演習に臨むこと。 ・演習時間内に実施できない場合は、自己学習時間で練習を行う。 ・積極的に授業及び演習に参加し、技術の修得に努める。”						

科目名	健康状態別看護Ⅲ（状況設定演習Ⅰ）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	本校職員（実務経験のある教育者）						
ねらい	既習知識を統合し、対象の状態に応じた援助を実践する基礎的能力を習得する。						
回数	内 容						授業形態
1 回	1 複数の看護技術を統合した実践 1) 事例をもとに、健康障害をもつ対象の療養生活上のニーズを把握し、既習知識と技術及び倫理的態度を踏まえて対象に適した援助を実践・評価する。 (1) 疾患・障害をもつ対象者の情報収集とアセスメント						講義 GW
2～5 回	(2) 看護上の問題と看護計画						
6～11 回	計画に基づく実践練習（タスクレーンク）						講義・演習
12～14 回	(3) 援助の実施 環境・スクリーニング・フィジカルアセスメント・清潔・排泄・活動・コミュニケーションの各技術の中から、複数技術を組み合わせさせた援助を実践する。 *実施した援助の報告と記録を含む。 (自己の実践の振り返り)						技術試験
15 回	(4) 評価						講義
評価方法及び観点	レポート課題と技術試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークや技術試験に向けた技術練習には積極的な授業姿勢と望む。 ・実習前には技術試験を課す。 不合格の場合には、自己練習のうえ、合格するまで再試験を課す。（合格のうえで実習には臨ませることとする。 ・課題レポート等は提出期限を厳守のうえ、表紙をつけて提出すること。 						

科目名	臨床判断						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	山崎 紀久子 (実務経験のある教育者)						
ねらい	看護師のように考えることをめざし、臨床での「気づき・解釈」を実践につなげていく思考過程を習得する。						
回数	内 容						授業形態
1 回	I. 臨床判断 概要 1 講義前課題の意味・臨床判断を行う理由・今後の流れ						講義
2・3 回	2 症状別看護 ① 1) グループワーク「直腸切除術」の気づきシート作成						講義 映像レク GW
4・5 回	2) 実習室で事例に沿った環境を確認 3) 事例の看護を考える						
6・7 回	症状別看護 ② 1) グループワーク「慢性心不全」の気づきシート作成						
8・9 回	2) 実習室で事例に沿った環境を確認 3) 事例の看護を考える						
10・11 回	症状別看護 ③ 1) グループワーク「慢性呼吸不全」の 気づきシート作成						
12・13 回	2) 実習室で事例に沿った環境を確認 3) 事例の看護を考える						
14・15 回	まとめ グループ発表						発表と講義
評価方法及び観点	提出物とパフォーマンス課題(ルーブリック評価)で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学③ 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 (医学書院) 症状別看護過程 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・DVD 学習や調べ学習等を指示するので、必ず指示されたことを厳守のうえで授業に臨むこと。 ・グループでの課題もあるため、主体的に参加すること。 ・演習やグループワークには積極的な参加姿勢を望む。						

2024 年度 教育課程

專 門 分 野
(地域・在宅)

地域・在宅看護論

構築の考え方

在宅看護論は、地域で生活しながら療養する人とその家族を対象とし、地域で生活する人々の健康問題への援助について総合的に理解し、在宅における看護が実践できる基礎的能力の育成をめざす領域として位置づける。

近年、地域に生活する人々は、人口構造および疾病構造の変化に伴う医療体制改革や、家族形態の変化による介護不足問題等から、在宅におけるケアニーズを拡大させている。

また地域で生活する人々は、核家族の増加もあり個人主義の傾向が強くなり、多様な価値観の尊重を求めるようになってきている。それに治療優先の療養から、自らの生活ニーズに合わせた療養へ、そして受け身から自ら選択する療養へと形態を変化させてきている。

そのため看護師には、単に在宅療養の看護技術の提供だけでなく、施設内看護と在宅看護との相違を踏まえ、療養者や家族の QOL・自己決定を尊重し、セルフケアを促進することが求められている。そして対象のもつ諸問題に対し、専門的知識・技術を活用し解決していく役割がある。さらには、終末期看護を含む在宅での看取りを充実させていくことも課題となっている。また対象が安定した生活を継続していくために、地域保健医療福祉機関との連携・協働を図っていくことが重要となる。

これらのことを踏まえ、地域・在宅看護論では既習の知識・技術を統合しつつ、地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を理解し、対象に応じた看護を判断し実践する基礎的能力を養う必要がある。しかし、学生は生活体験が乏しく、在宅で療養している対象をイメージできない傾向にある。また、対人関係形成能力も未熟である。

そこで、まず、人々の暮らしや地域で暮らす人々を理解する必要がある。そのうえで、在宅で療養する人々は「生活者」であることを意識し、それぞれの人には家庭・家族があり、「地域社会の中で役割をもって生活している人」として捉えられるよう、看護の視野を広げて学習を進めていく必要がある。

以上のことから、地域・在宅看護論の授業科目構成は、看護の基礎となる地域演習Ⅰ・Ⅱ、地域で暮らす人々と看護、地域・在宅看護論概論、地域・在宅看護論援助論Ⅰ・Ⅱの6単位（130時間）並びに地域・在宅看護論実習2単位（90時間）とし、合計単位数は8単位（220時間）とする。

看護の基礎となる地域演習Ⅰでは、地域で暮らす生活者の環境・生活者の思い・生活者を支える人たちの現状を知る。

看護の基礎となる地域演習Ⅱでは、医療機関と地域をつなぐ退院支援と地域包括ケアの実際を知り、対象が療養する生活の場・看護師が活動するさまざまな場における看護の役割を理解する。

地域で暮らす人々と看護では、人々が暮らす地域を総合的に理解するとともに、地域における課題と看護の役割を考察する。

地域・在宅看護論概論では、地域で療養する対象の特性を理解し、地域保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の機能と役割を理解する。

地域・在宅看護論援助論Ⅰでは、地域・在宅という場で展開される看護の実践に必要な基礎的知識を理解するとともに、生活の場に訪問する際の基本的マナーを理解・習得する。

地域・在宅看護論援助論Ⅱでは、地域・在宅の場で展開される看護の実践に必要な基礎的知識・技術を理解する。

地域・在宅看護論

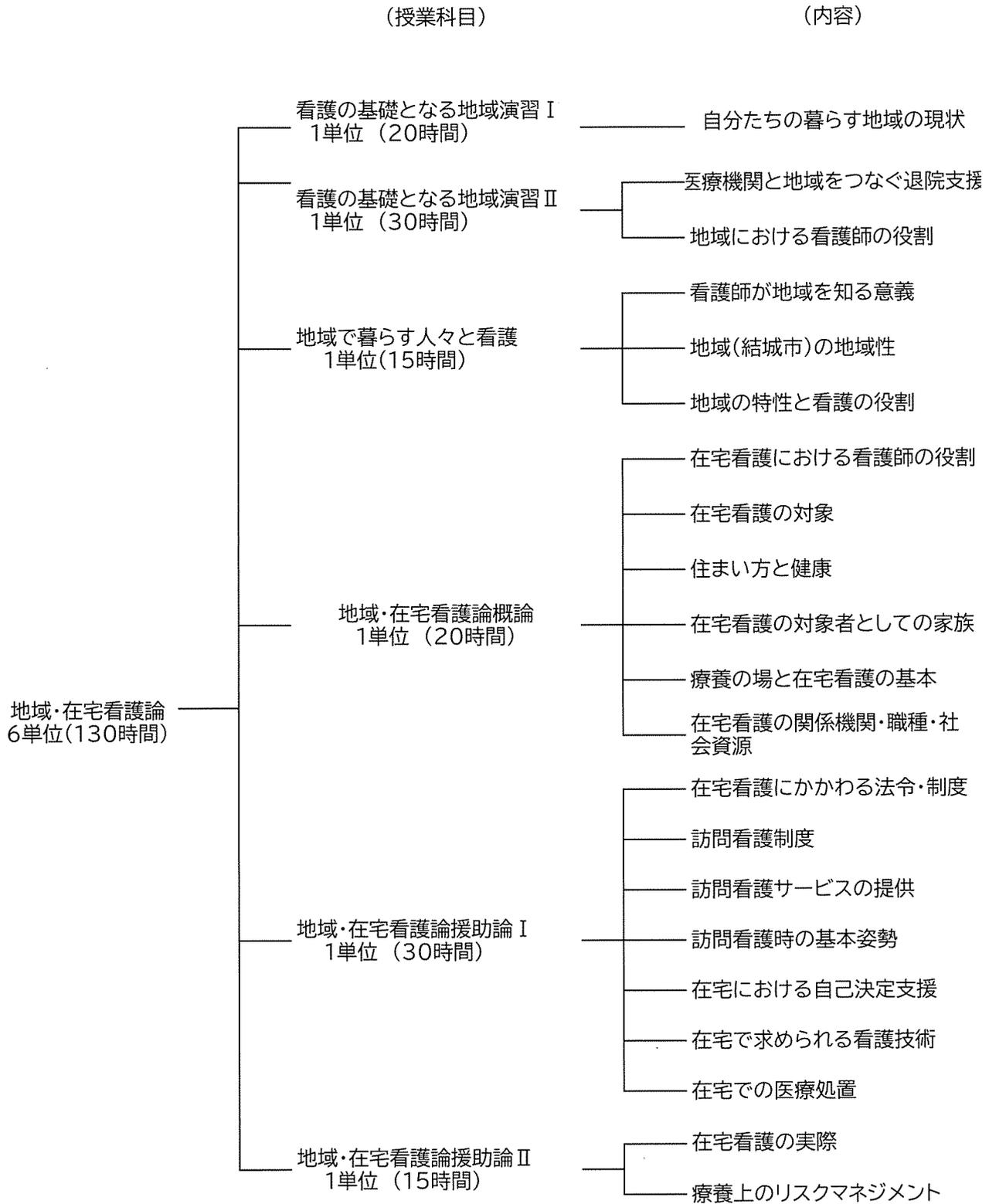
目 的

地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 地域で生活しながら療養する人々と、その家族の特徴を理解する。
- 2 対象の健康の保持増進と、在宅での療養が継続できるための看護を理解する。
- 3 地域保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

地域・在宅看護論 科目構造



科目名	看護の基礎となる地域演習 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	上田 麻衣子 (実務経験のある教育者：看護師)						
ねらい	暮らしとは何かをあらためて考え、暮らしの多様性と共通性を学び、暮らしと健康の関係について考える。また、地域での暮らしを支える人たちの現状を知る。						
回数	内 容						授業形態
1 回	1 人々の暮らしの理解 1) 暮らしとは 2) 暮らしの多様性と共通性						講義
2 回	2 暮らしと健康の関係 1) 暮らしのなかで生じる健康問題とその影響 2) 家族の暮らしと健康 3) 健康の多様性 4) 健康をとらえる看護の視点						講義
3 回	3 さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし						講義
4 回	4 演習オリエンテーション 1) 演習の目的 ①地域での自宅以外の暮らしの場の実際を知る ②地域での暮らしを支える人たちを知る 2) 演習への心構え ①対象者の説明 ②接遇・身だしなみ ③コミュニケーションの留意点 3) 演習での学びの視点と演習方法 3) 施設別オリエンテーション						講義
5・6 回	5 施設演習						施設見学
7・8 回	6 まとめ (体験したことをねらいに沿っての分かりやすく他者に説明するための準備)						GW
9・10 回	7 学びの共有・まとめ						発表
評価方法及び観点	GW 参加度 レポートの提出状況 レポートの内容						総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	地域・在宅看護の基礎 (医学書院)						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験したことを説明できるよう事前学習をして臨むこ。 ・ 看護学生であることを自覚し、主体的な学習行動とマナーを厳守すること ・ GW には積極的な参加姿勢を望む。 ・ 発表時は質疑応答を行ない、互いの学びを深めること。 						

科目名	看護の基礎となる地域演習Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	1年
担当者名	海老沢 佳代 (実務経験のある教育者：看護師)						
ねらい	暮らしの理解と暮らしの基盤となる地域の理解を踏まえ、その人にとっての健康を維持しながら地域で暮らすことを支える退院支援や地域包括ケアの実際を知る。また地域での暮らしを支援する看護師のあり方を考察する。						
回数	内 容					授業形態	
1回	1 地域包括ケアシステムと地域共生社会 2 地域包括支援センターの概要					講義	
2回	3 地域での療養の場の概要と看護の継続性 1) 療養の場の移りかわり ①入院後の転棟・転院 ②退院後のさまざまな療養の場 2) 退院支援・退院調整について 3) 地域における他職種連携					講義	
3・4・5回	4 地域での暮らしを支える支援やしゅきみ (演習事前学習) 1) 退院支援・退院調整 2) 地域包括ケアシステム 3) 地域包括支援センター 4) 地域における他職種連携					個人学習 グループ学習	
6回	5 演習オリエンテーション 1) 演習の目的 ①人々の地域での暮らしを支える支援としての退院支援や、地域包括支援センターでの活動の実際を見学することで、事前に学習した内容の理解を深める ②演習を通し、地域の人々の健康と暮らしを守る支援に必要な看護師の姿勢について考察する 2) 見学の視点と演習方法 3) 施設別オリエンテーション					講義	
7～10回	6 地域連携室または退院支援・調整の場面の見学					演習	
11～13回	7 まとめ (演習での体験を見学の視点に沿ってまとめ、そこから「地域で暮らすこと」を支援する上での看護師のあり方を考察する)					GW	
14・15回	8 学びの共有・まとめ					発表	
評価方法及び観点	GWの参加度や学習姿勢 レポートの内容・提出状況 筆記試験					} 総合的に評価する。	
必須資料 (テキスト等)	地域・在宅看護の基礎 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・体験したことを説明できるよう事前学習をして臨むこと。 ・看護学生であることを自覚し、主体的な学習行動とマナーを厳守すること。 ・GWには積極的な参加姿勢を望む。 ・発表時は質疑応答を行ない、互いの学びを深めること。						

科目名	地域〈結城市〉で暮らす人々と看護						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20時間)	対象 年次	1年
担当者名	市職員(実務経験のある教育者) 海老沢 佳代(実務経験のある看護師)						
ねらい	暮らしの基盤としての地域の特性や、そこで暮らす人々の健康と地域のつながりを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1回	1 暮らしと地域 1) 地域とは 2) 人々の暮らす地域の多様性						講義
2回 (講義)	2 学校のある地域〈結城市〉の理解 1) 自然環境(位置・地形・気候)						講義 グループ学習
3~4回 (ワーク)	2) 社会的環境(市役所・交通の便・産業・公園・運動施設・店舗・近隣とのつながりなど)						
	3) 健康状態(人口動態:人口, 年齢3区分の人口の割合・死亡率・出生率・合計特殊出生率など, 平均寿命, 健康寿命, 死因順位, 受療者数, がん検診受診率など)						
	4) 介護事業統計(要介護認定割合, 要介護認定者の有病状況など)						
	5) 医療施設(特定機能病院, 地域医療支援病院, 病院, 診療所など)						
	6) 保健施設(保健所, 市町村保健センター, 母子健康包括支援センター, 精神保健福祉センター)						
	7) 介護施設(地域包括支援センター, 介護老人保健施設, 介護老人福祉施設, 居宅サービス施設)						
	8) 福祉施設(福祉事務所, 児童相談所, 児童福祉施設, 障害者福祉施設など)						
	9) 訪問看護ステーション						
	10) 子育て環境(学校, 保育所, 学童保育など)						
	11) 文化的環境・風土等						
	3 地域〈結城市〉マップの作成と活用方法						
	4 地域の生活環境が健康に与える影響						
5・6回	5 地域マップの作成						グループ学習
7回	6 事例で考える「地域」でその人らしく暮らすために必要なことや活用できる地域の資源(作成した地域マップをもとに考える)						講義 グループ学習
8回	7 健康障害がある人もそうでない人も地域で健康的に暮らすための課題						講義 グループ学習
9・10回	8 発表・まとめ(担当した地域の特性と事例検討結果やその地域で健康的に暮らすための課題について発表する)						発表
評価方法	GW参加度レポートの提出状況 } 総合的に評価する。 レポートの内容 }						
必須資料	地域・在宅看護の基礎(医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・主体的に学習し, グループで協同して学習を進めること。 ・GWには積極的な参加姿勢を望む。 ・発表時は質疑応答を行ない, 互いの学びを深めること。						

科目名	地域・在宅看護論概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	菊池 朝子 (実務経験のある授業科目：看護師) 飯島 明子 (//)						
ねらい	ライフステージや健康レベルの側面から地域・在宅看護の対象者や地域・在宅看護の機能と役割を理解する。さらに地域・在宅看護に欠かせない予防活動や家族看護の視点を養う。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 在宅看護の目指すもの 1) 在宅看護が提供される場 2) 在宅看護の場の広がり 3) 在宅看護に求められていること 4) あらゆる面から QOL を考える 2 在宅看護における看護師の役割						講義
3・4回	3 在宅看護の対象者の特徴 1) 発達段階からみた対象者の特徴 2) 健康段階からみた対象者の特徴 3) 障害からみた対象者の特徴 4) 療養状態別にみた対象者の特徴 4 住まい方と健康 5 家族 1) 在宅看護の対象者としての家族 2) 家族の捉え方と看護師の関わり 3) 家族のアセスメント 4) 家族への支援 5) 地域システムの視点から家族を支える (地域のサポート ピアサポート レスパイトケア)						講義
5・6回	6 在宅看護の提供方法 1) 外来看護 2) 訪問看護 3) 施設での看護 4) 通所サービスでの看護 7 療養の場の移行 1) 患者・家族の意思決定支援・調整 2) 退院支援・退院調整 3) 入退院時における医療機関との連携 4) 入退所時における施設との連携 8 在宅看護の基本となるもの						講義

7～10回 (45分)	9 在宅看護の関係機関・職種と社会資源 1) 在宅における社会資源とは 2) ケアマネジメントと社会資源の活用 3) 地域における多職種連携 4) ケアマネジメントと社会資源の活用 5) 地域における多職種連携 (1) 在宅における連携の特徴 (2) 医師との連携 (3) 地域の社会資源との連携 (4) ネットワークづくり	講義
	10 対象者（家族も含む）の権利保障 1) 個人の尊厳 2) 自己決定権 3) 個人情報の保護 4) 看護師の守秘義務など 5) 成年後見 6) 虐待の防止 7) サービス提供者の権利擁護 8) 法律問題の事例 11 在宅看護における看護師の倫理	講義
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・「看護の基礎となる地域演習Ⅰ」の内容を復習して臨む。	

科目名	地域・在宅看論援助論 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	地域・在宅という場で展開される看護の実践に必要な基礎的知識を理解するとともに、生活の場に訪問する際の基本的マナーを理解・習得する。						
回数	内 容						授業形態
1～3回	1 在宅看護に関わる法令・制度 1) 介護保険制度 2) 医療保険制度 3) 障害者総合支援法 4) 難病法 5) 医療介護総合確保推進法 6) 医療法 7) その他の主な公費負担医療 2 介護保険制度 1) 保険者・被保険者・受給権者 2) 利用の手続き 3) 介護保険で給付対象となるサービス 4) 利用料 3 訪問看護の制度 1) 訪問看護の利用者と訪問回数 2) 訪問看護ステーションに関する規定 3) 訪問看護の利用までの手順 4) 訪問看護の費用 4 訪問看護サービスの提供 1) 訪問看護の提供とチームケア 2) 訪問看護ステーションの管理・運営 3) 訪問看護サービスの質保証 4) 訪問看護の記録						講義
4～6回	5 訪問看護時の基本姿勢 6 在宅における自己決定支援 1) 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション (1) 訪問時のマナーと態度 2) 在宅看護の展開の視点 (1) 生活動作のアセスメントと生活行為への動作 (2) 必要な介助を見極めるための動作分析 7 在宅で求められる看護技術 1) 食生活・嚥下 2) 排泄 3) 移動・移乗 4) 清潔						講義

7～15回 (45分)	<p>1 フィジカルアセスメント</p> <p>2 在宅での医療処置</p> <p>1) 褥瘡(創傷も含む)</p> <p>2) 尿道留置カテーテル</p> <p>3) ストーマケア(人工肛門・人工膀胱)</p> <p>4) 経管栄養・胃瘻・経鼻経管栄養法</p> <p>5) 在宅中心静脈栄養法</p> <p>6) 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)</p> <p>7) 在宅酸素療法(HOT)</p> <p>8) 在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法</p> <p>9) 疼痛緩和</p> <p>* 在宅酸素療法*非侵襲的換気療法*在宅人工呼吸器療法含</p>	講義 演習
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	<p>系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 (医学書院)</p> <p>国民衛生の動向 (厚生統計協会)</p> <p>公衆衛生が見える 第3版 (メディックメディア)</p>	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	在宅看護に関わる法令・制度については、関係法規 I で履修済のため、復習及び自己学習してから臨むこと。	

科目名	地域・在宅看護論援助論Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	地域・在宅の場で展開される看護の実践に必要な基礎的知識・技術を、事例を通して理解する。						
回数	内容					授業形態	
1～6回	在宅看護の実際 1 在宅看護介入時期別の特徴 2 在宅療養者の状態別看護 1) 認知症・独居療養者 2) 難病の療養者 3) 小児の療養者 4) COPDの療養者 3 在宅におけるエンドオブライフケア 1) 在宅におけるエンドオブライフケアの特徴 2) エンドオブライフケアの特徴 3) 在宅終末期の特徴と療養の経過 4) 症状のコントロール（緩和ケア） 5) 自己決定への支援 6) 家族への支援 7) グリーフケア					講義 *DVD視聴 「在宅看取り」	
7回	4 療養上のリスクマネジメント 1) 在宅看護におけるリスクとは 2) 環境の整備による安全の確保 3) 身体損傷の防止 4) 薬物による事故の防止 5) 感染の防止 6) 災害に対する準備と対応					講義	
(45分)						試験	
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 地域・在宅看護の実践（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会） 公衆衛生が見える（メディックメディア）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・実習に直結する内容なので、十分に理解できるよう望む。 ・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように臨むこと。 ・積極的な授業姿勢を望む。						

2024 年度 教育課程

專 門 分 野 (成人)

成人看護学

構築の考え方

成人看護学は、成人期のあらゆる健康レベルにある対象に対して、看護実践をおこなうための基礎的能力を養う領域として位置づける。

成人期は、青年期から壮年期・向老期にあたり、人生の中で最も長い期間である。

この時期の対象は、身体的には成長・成熟・衰退という変化が起こる中で、アイデンティティを確立し、職業の選択を行う・結婚して家庭を築く等、自立かつ自律した社会生活を営み、社会的役割や責任を負いながら生活を送るとされる。そのため、心身にかかる負担が多く、置かれている環境や生活習慣から健康問題も生じやすい時期である。

現代の経済的・環境的变化はめまぐるしく、それらの影響を受けて対象の健康問題も複雑性や多様性を増している。このため、対象を包括的に理解し、その健康生活を多角的にとらえる視点を持つ必要がある。そして、対象の生活と健康に関する基本的知識を理解基盤とし、多様な健康状態や健康問題を理解し、それらに対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ必要がある。

看護においては、対象を保健医療という広い視野の中で健康の保持・増進という視点においてとらえ、疾患をもった対象に対して、彼らが最も必要としている援助を行うといった基本に立ち考えていくことが重要である。

これらのことから、個々人の生活と健康に焦点を合わせ、その人らしくあることができるよう看護の基本となる考え方や方法を学び、大人に特徴的に、また共通してみられる健康状態や健康問題に対する具体的な援助方法を学習していく。

また、成人期にある学生が、家族や社会の一員としての自己を理解し、発達課題を明確にした上で課題達成ができるよう学習を支援する。

以上のことから、成人看護学の授業科目構造は、成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ 6単位（135時間）並びに成人看護学実習2単位（90単位）とし、合計単位数は8単位（225時間）とする。

成人看護学概論では、成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴、成人の健康の保持・増進に対する援助について理解する。

成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴでは、健康障害を持つ成人とその家族を理解するとともに、健康障害からの回復の支援や、健康障害を持ちつつ生活を営む対象への看護について理解する。

健康障害を持つ成人を理解し、健康障害の成り立ちや回復するための治療を踏まえつつ看護を学習するために、解剖生理学・疾病治療論と同じ科目構成とする。

成人看護学実習では、生命の危機的状況にある対象を理解し、生命の維持と健康の回復に向けた看護を理解する。

成人看護学

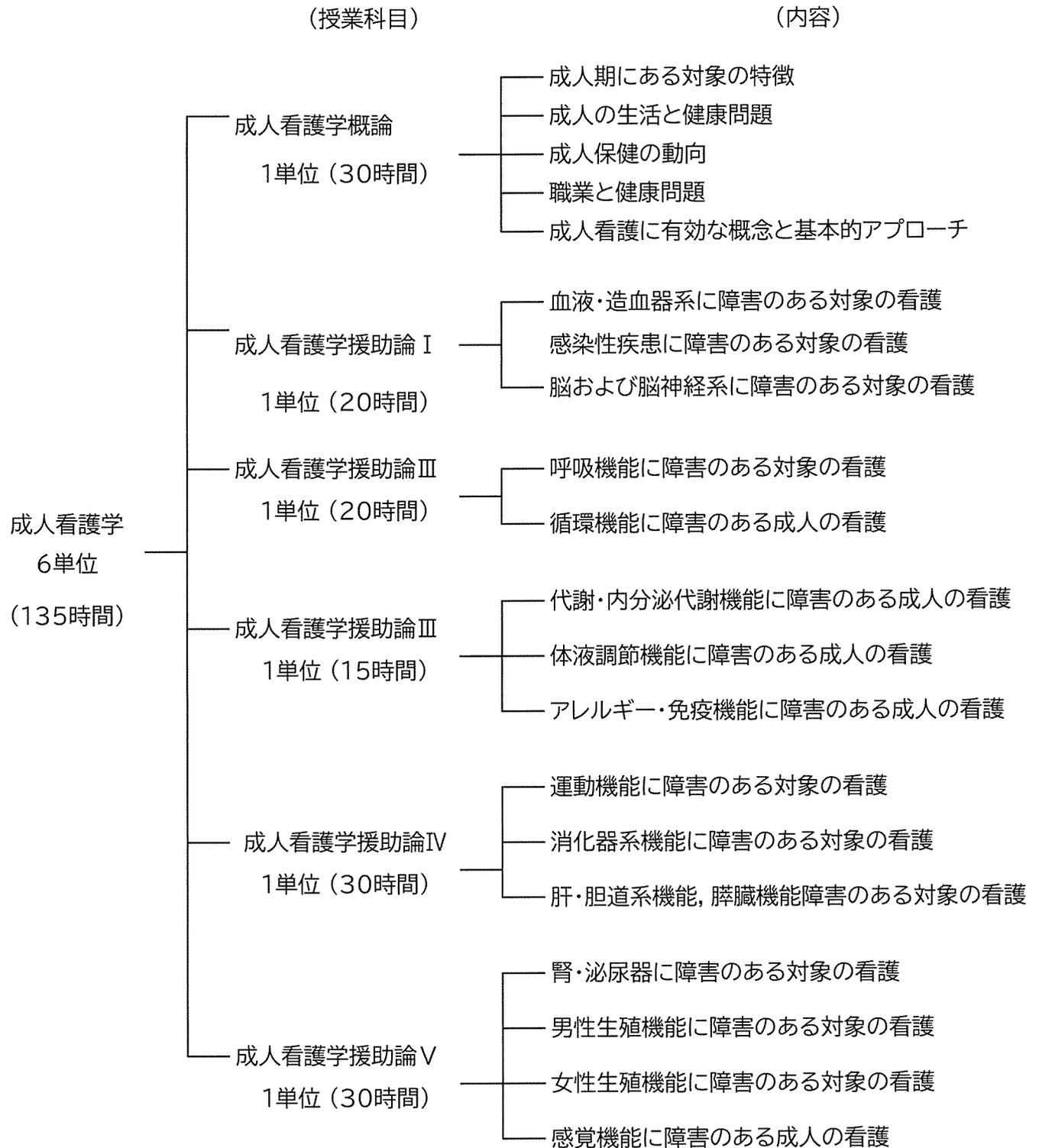
目 的

成人期にある対象の特徴を理解し，健康の保持・増進および健康障害に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 成人期にある対象の特徴と健康特性を理解する。
- 2 成人期にある対象の健康の保持・増進と疾病予防に必要な看護について理解する。
- 3 成人期にある対象の健康障害のレベルや疾病の経過に対応した看護について理解する。
- 4 成人期にある対象を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

成人看護学 科目構造



科目名	成人看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	上田 麻衣子 (実務経験のある教育者)						
ねらい	成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解するとともに、成人期における健康障害のリスクと健康の保持増進に対する支援を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～5回 (45分)	1 成人期の発達と役割 1) 成人各期の身体の変化 (発達・成熟と衰退) 2) 心理・社会的および生活状況からみた特徴 3) 性的自己の発達 4) 成人の役割						講義 GW
6～8回	2 成人の学習の特徴と看護 1) 成人の学びの特徴 2) 成人教育理論 (1) アンドラゴジー (2) エンパワメント (3) 自己効力感						講義
8～15回 (45分)	3 成人保健 1) 生活習慣と健康障害 (1)生活習慣病と健康障害の関連 (2)生活習慣病の予防と対応 (3)生活習慣病の予防とセルフケア 2) ストレスと健康障害 (1)ストレスの種類と生理的対応 ①ストレス理論 ②コーピング理論 (2)生活ストレスと健康障害 (3)ストレス関連疾患の予防と対応 3) 職業 (仕事) と健康障害 (1) 就労条件と健校医障害の関連 ①労働環境 ③雇用形態 (2)職業性疾患の予防と対応 4 成人保健対策 1) 地域保健対策 国民の健康づくりと健康増進法 2) 生活習慣病対策 3) 産業保健対策						講義 GW
							試験
評価方法及び観点	筆記試験 レポート GW への参加姿勢 } 総合的に評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 (医学書院) 看護のための人間発達学 第5版 (医学書院) 公衆衛生が見える 第3版 (メディックメディア) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・ グループワークには積極的な参加姿勢を望む。 ・ 課題レポート等は提出期限を厳守のうえ、表紙をつけて提出すること。						

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（血液造血器疾患・脳神経系疾患患者の看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<血液造血器> 1～5回 (45)	1 血液・造血器疾患患者の看護 1) 白血病（急性・慢性） 2) 悪性リンパ腫 3) 多発性骨髄腫						講義
<脳神経系> 1～3回	1 脳・神経疾患（外科系）患者の看護 1) くも膜下出血 2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷						
4～5回	2 脳・神経疾患（内科系）患者の看護 1) 脳梗塞 2) 脳出血 3) てんかん 4) ギランバレー症候群 5) パーキンソン病						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 成人看護学④ 血液・造血器（医学書院） 系統看護学講座 専門 成人看護学⑦ 脳・神経（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学（医学書院） 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・関連科目：解剖生理学Ⅰ・疾病治療論Ⅰが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・解剖生理学テキスト「生体のしくみ」：「血液のしくみ」「神経系のしくみ1・2・3」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。（※復習視聴）（なお何度視聴してもかまわない。） ・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。 						

科目名	成人看護学援助論Ⅱ (呼吸機能並びに循環機能・感染による障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(〃) 外部講師(〃)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<呼吸器> 1~6回	1 呼吸器疾患患者の看護 1) 肺炎(細菌性肺炎・間質性肺炎・誤嚥性肺炎) 2) 気管支喘息 3) 肺がん 4) 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 5) 気胸						講義
<感染症> 1~3回 (45分)	2 感染症疾患患者の看護 1) ウイルスによる感染症(インフルエンザ・エボラ出血熱・ コロナウイルス感染症・ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症) 2) 細菌による感染症(結核・コレラ・梅毒) 3) 敗血症 破傷風						
<循環器> 1~3回	2 循環器系疾患(内科系)患者の看護 1) 虚血性心疾患 ①狭心症 ②急性心筋梗塞 2) 急性冠症候群 3) 心不全 4) 不整脈 5) 血圧異常:高血圧						
4~6回	3 循環器系疾患(外科系)患者の看護 1) 心臓弁膜症 2) 大動脈解離 3) 閉塞症動脈硬化症						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器(医学書院) 系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器(医学書院) 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学① アルギン-膠原病・感染症(医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト(医学映像教育センター)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・関連科目:解剖生理学Ⅱ・疾病治療論Ⅱが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・解剖生理学テキスト「生体のしくみ」:「呼吸のしくみ」「循環のしくみ1・2」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。(※復習視聴)(なお、何度視聴してもかまわない。)・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	成人看護学援助論Ⅲ (代謝・内分泌系, 免疫・アレルギー-機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて, 診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～5回 (45)	1 代謝・内分泌代謝疾患患者の看護の実際 1) 視床下垂体機能: 尿崩症 2) 甲状腺疾患: 甲状腺機能亢進症 (バセドウ病) 甲状腺がん 3) 副甲状腺疾患 4) 副腎疾患: クッシング症候群・アルドステロン症 5) 糖尿病 6) 高脂血症 7) 痛風						講義
<免疫系> 6～8回 (45)	2 アレルギー・膠原病疾患患者の看護 1) 関節リウマチ 2) シェーグレン症候群 3) 全身性エリテマトーデス (SLE)						
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑩ アレルギー-膠原病・感染症 (医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト (医学映像教育センター)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・関連科目: 解剖生理学Ⅲ・疾病治療論Ⅲが基礎となり, 看護の学習となる科目であるので, 必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・映像以外: 「ホルモンのしくみ」を事前に視聴のうえ, 授業に臨むこと。(※復習視聴) (なお, 映像以外は, 何度視聴してもかまわない。) ・複数の講師が担当するので, 出席時間等は自己管理のうえ, 体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	成人看護学援助論Ⅳ (運動器系・消化器系機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<運動器> 1～5回	1 運動器疾患患者の看護 1) 大腿骨骨折 (頸部・骨幹部) 2) 脊髄損傷 3) 椎間板ヘルニア 4) 変形性脊椎症 5) 関節の変性疾患 (変形性股関節症・変形性膝関節症)						講義
<消化器> 1～3回	2 消化器系疾患 (主に外科系) 患者の看護 1) 食道がん 2) 胃がん 3) 大腸がん						
4・5回	3 消化器系疾患 (主に内科系) 患者の看護 1) 胃・十二指腸潰瘍 2) 潰瘍性大腸炎・クローン病 3) イレウス						
6～10回 (45)	4 肝・胆道系, 膵機能疾患患者の看護 1) 肝臓がん 2) 肝炎 (急性・慢性) 3) 肝硬変 4) 胆石症 5) 膵臓がん 6) 膵炎 (急性・慢性)						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑮ 歯科・口腔 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・関連科目: 解剖生理学Ⅳ・疾病治療論Ⅳが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・映像外: 「身体運動のしくみ2」「消化吸収のしくみ1」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。(※復習視聴) (なお、映像外は何度視聴してもかまわない。)・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	成人看護学援助論Ⅴ (体液調節機能, 生殖機能, 感覚機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(実務経験のある授業科目:看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて, 診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<腎泌尿器> 1~4回 (45)	1 腎臓疾患患者の看護 1) 急性・慢性腎不全(透析看護含) 2) ネフローゼ症候群 3) 炎症性疾患(腎炎, 膀胱炎)						講義
5~7回	2 泌尿器疾患患者の看護 1) 尿路結石 2) 前立腺がん 3) 膀胱腫瘍 4) 精巣腫瘍						
<婦人科> 1~3回	3 性・生殖器疾患患者の看護 1) 卵巣がん 2) 子宮がん 3) 子宮筋腫 4) 性感染症						
4・5回	5) 乳がん						
<感覚器> 1回	4 感覚器疾患患者の看護 1) 眼科疾患患者の看護 緑内障 網膜剥離						
2回	2) 耳鼻咽喉科疾患患者の看護: 突発性難聴 メニエール病						
3回	3) 皮膚科疾患患者の看護 熱傷						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料(テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学(医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト(医学映像教育センター) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑬ 眼 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・関連科目:解剖生理学Ⅴ・疾病治療論Ⅴが基礎となり, 看護の学習となる科目であるので, 必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・映像以外:「排泄のしくみ」を事前に視聴のうえ, 授業に臨むこと。(※復習視聴)(なお, 映像以外は, 何度視聴してもかまわない。) ・複数の講師が担当するので, 出席時間等は自己管理のうえ, 体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

成人看護学 学習内容マトリクス

科目名	単元	主な疾患	主要症状	検査・治療・処置	時間
成人看護学援助論Ⅰ 1単位 20時間 (うち試験1時間)	・血液・造血機能に障害のある対象の看護	白血病(急性・慢性) 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫	出血傾向 貧血 易感染	化学療法 安静療法 骨髄穿刺 輸血療法 骨髄移植	8時間
	・脳および脳神経機能に障害のある対象の看護	脳梗塞 脳出血 くも膜下出血 脳腫瘍 頭部外傷 てんかん ギランバレー症候群 パーキンソン病	運動麻痺 失語 意識障害 嚥下障害 排尿障害 呼吸障害 頭蓋内圧亢進症	手術療法 薬物療法 脳室ドレナージ 脳血管造影 髄液検査 リハビリテーション 言語療法	11時間
成人看護学援助論Ⅱ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・呼吸機能に障害のある対象の看護	肺炎 肺がん 気管支喘息 気胸 慢性閉塞性肺疾患	呼吸困難 胸痛 胸水 咳嗽 咯痰 咯血 チアノーゼ	化学療法 手術療法 酸素療法 胸腔ドレナージ 人工呼吸 気管切開 気管支鏡 呼吸機能検査 肺組織検査 肺理学療法	12時間
	・感染症疾患患者の看護	新興・再興感染症 結核 梅毒 敗血症			5時間
	・循環機能に障害のある対象の看護	狭心症 心筋梗塞 心不全 高血圧 心臓弁膜症 大動脈瘤 閉塞性動脈硬化症	胸痛 動悸 不整脈 浮腫 うっ血 チアノーゼ ショック 呼吸困難	心臓血管造影 心電図 心エコー検査 手術療法 PCI PCPS IABP 心臓ペースメーカー 心臓リハビリテーション	12時間
成人看護学援助論Ⅲ 1単位 15時間 (うち試験1時間)	・代謝・内分泌機能に障害のある対象の看護	甲状腺機能亢進症 尿崩症 甲状腺機能低下症 クッシング症候群 アルドステロン症 糖尿病 高脂血症 痛風	甲状腺機能障害症状 下垂体不全症状 低血糖 高血糖	食事療法 運動療法 インスリン療法 ホルモン血中・尿中濃度測定 自己血糖測定 ホルモン負荷試験 ホルモン補充療法 糖負荷試験 脂質・尿酸代謝検査	8時間
	・アレルギー・免疫機能に障害がある対象の看護	全身性エリテマトーデス シェーグレン症候群 関節リウマチ クッシング症候群	発熱 関節炎 関節痛 皮膚症状 全身症状 アザイラキシショック	薬物療法 安静療法 減感作療法 免疫吸着療法 血漿交換	6時間

成人看護学 学習内容マトリクス

科目名	単元	主な疾患	主要症状	検査・治療・処置	時間
成人看護学援助論Ⅳ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・運動機能に障害のある対象の看護	大腿骨骨折(頭部・骨幹部) 椎間板ヘルニア 変形性脊椎症 脊髄損傷 変形性関節症(股・膝)	疼痛 腫脹 神経麻痺 知覚障害 出血 変形(フォルマン拘縮)	手術療法 安静療法 牽引療法 ギプス装着 ミエログラフィ 関節液検査 脊髄(椎間板)造影	10時間
	・消化吸収機能に障害のある対象の看護	食道がん 胃がん 消化性潰瘍 大腸がん 潰瘍性大腸炎 クロン病	吐血 下血 腹痛 嘔吐 下痢 便秘 嚥下障害 食欲不振 イレウス	食事療法 中心静脈栄養法 手術療法 放射線療法 造影検査(胃透視・注腸) 内視鏡検査 塞栓術	12時間
	・肝・胆道系、膵臓機能に障害のある対象の看護	肝臓がん 肝硬変 肝炎(急性・慢性) 胆石症 膵臓がん 膵炎	吐血 腹痛 腹部膨満 肝不全 腹水貯留 肥満 るい瘦 黄疸 全身倦怠感	放射線療法 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 肝生検 肝動脈塞栓術 動脈注入化学療法 PTCD 経皮的エタール注入 経皮的マイクロ凝固法 ドレーン管理 食事療法 薬物療法	7時間
成人看護学援助論Ⅴ 1単位 30時間 (うち試験1時間)	・体液調節機能に障害のある対象の看護	腎不全(急性・慢性) 腎炎 ねろーゼ症候群 腎腫瘍	血尿 浮腫 尿毒症	透析療法 安静療法 食事療法 薬物療法 腎移植 腎生検 腎機能検査 静脈性尿路造影	8時間
	・泌尿器並びに男性生殖器に障害のある対象の看護	尿路結石 前立腺がん 膀胱炎 膀胱腫瘍 精巣腫瘍	排尿障害 勃起障害	手術療法 ホルモン療法 薬物療法 尿流動能検査 膀胱留置カテーテル管理 尿管ストーマ造設 膀胱鏡 碎石術	5時間
	・女性生殖機能に障害のある対象の看護	卵巣がん 子宮筋腫 子宮がん(頸部・体部) 乳がん 性感染症	疼痛 性器出血 月経異常 排尿障害 外陰部掻痒	手術療法 化学療法 放射線療法 ホルモン療法 頸管粘液検査 不妊治療 性感染症治療 乳房超音波検査 マネグラフィ 婦人科的処置	10時間
	・感覚機能障害のある対象の看護	緑内障 網膜剥離 突発性難聴 メニエル病 熱傷	視力障害 難聴 めまい 皮膚粘膜症状	手術療法 薬物療法 視力検査 眼底検査 聴力検査(オージオメーター) 耳鏡 生検(皮膚、粘膜、筋)	6時間

2024 年度 教育課程

專 門 分 野 (老年)

老年看護学

構築の考え方

老年看護学は、老年期のあらゆる健康レベルにある人とその家族を対象に、加齢現象や健康障害に応じた援助を実践する基礎的能力を養う領域として位置づける。

わが国の人口の高齢化は急速に進んでおり、後期高齢者の割合が増加している。寝たきりや認知症の高齢者が増加傾向にあり、核家族化の進展や介護する家族の高齢化などによる家族の介護機能の変化が起こっており、高齢者介護は今後の課題となっている。

老年期は生命が成熟した後、老化・衰退の道をたどり、死を迎える最終ステージであり、人間的に成熟・統合にむかって発達しながら、各々の人生を完成させるための重要な時期といえる。

高齢者は複数の疾患を持ち、慢性的に経過しやすいなどの特徴から、疾患中心ではなく生活志向で、日常生活の自立や生活の質(QOL)の向上をめざした看護が重要である。しかし核家族化や家族のあり方そのものの変化から、学生は日常生活の中で高齢者と接する機会は限られており、高齢者については漠然としたイメージしか持っていないことが多い。

これらのことから、学生の老年観を養い、高齢者を生活の視点からアセスメントし、QOLの向上をめざす看護と、高齢者の尊厳を守り、その人らしい生を全うし、安らかな死を迎えるための援助について学習していく。

老年期にある対象が、健やかに老いるための多様なニーズに対応するためには、保健医療福祉との連携が必要かつ重要であり、高齢者を取り巻く社会環境としての家族や地域社会との関連、特にソーシャルサポートについて理解し、看護の役割を学ぶ必要性がある。

以上のことから、老年看護学の授業科目構造は、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4単位(90時間)並びに老年看護学実習2単位(90時間)とし、合計単位数は6単位(180時間)とする。

老年看護学概論は、加齢現象を人間の生理的現象としてとらえ、老年期の対象の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、老年看護の機能と役割を理解する。

老年看護学援助論Ⅰは、高齢者を生活者として捉え、生活機能を整える看護と地域で高齢者を支えるシステムを理解する。

老年看護学援助論Ⅱは、老年期にある対象の健康障害の特徴と健康障害の応じた援助の方法を理解する。

老年看護学援助論Ⅲは、高齢社会における認知症の実態を理解するとともに、認知症予防の看護や認知症高齢者の看護を理解する。また、最終ステージである高齢者のエンドオブライフケアを理解する。

老年看護学実習では、対象の加齢現象や健康レベルの特徴を踏まえて、多様な場で生活・療養する対象に対して看護を実践する基礎的能力を習得する。

老年看護学

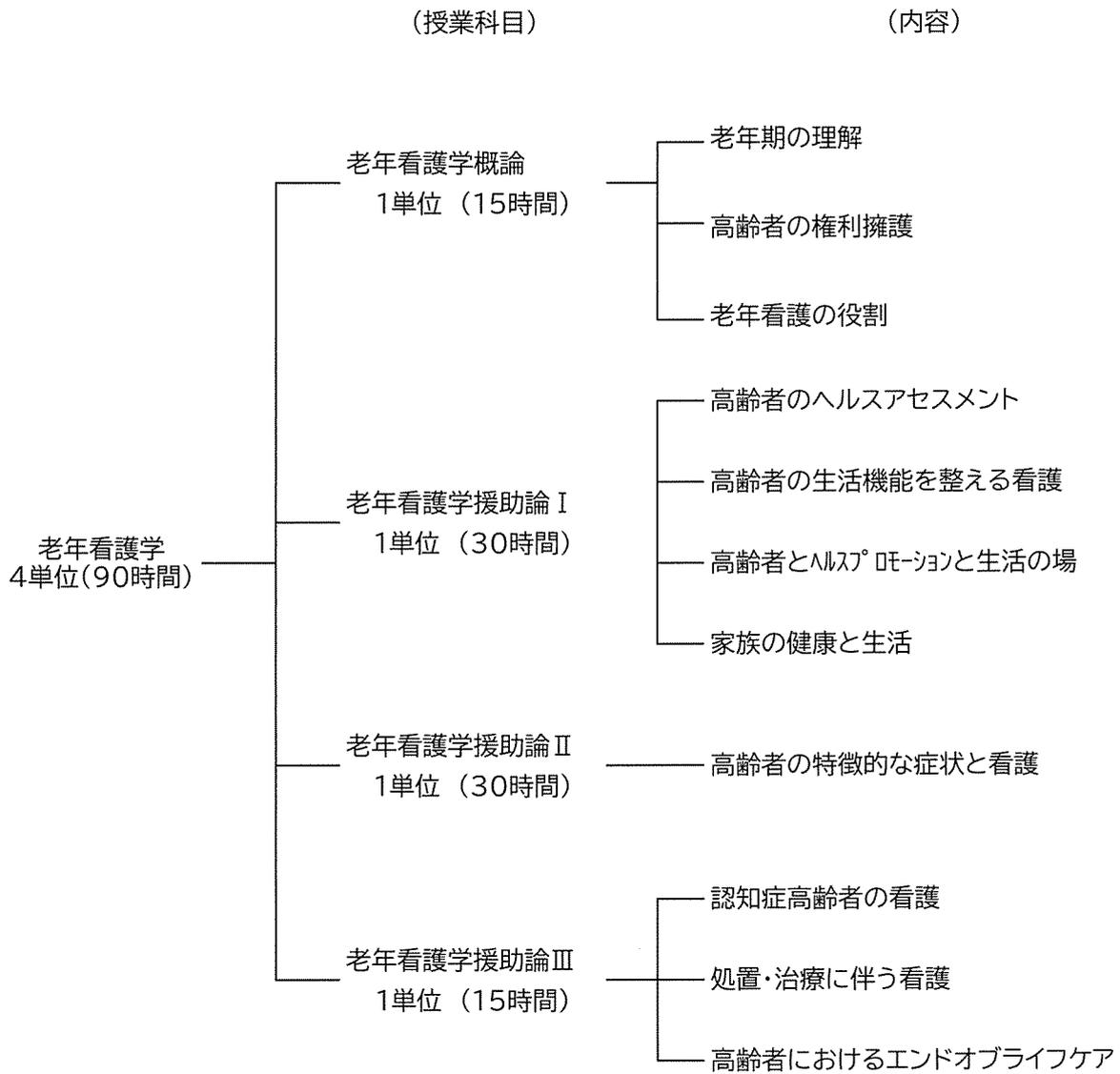
目 的

老年期にある対象の特徴を理解し、加齢現象と健康障害に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 老年期にある対象の特徴と健康特性を理解する。
- 2 加齢に応じた健康の保持・増進と健康障害に応じた援助の方法を理解する。
- 3 老年期にある対象を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

老年看護学 科目構造



科目名	老年看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	1年
担当者名	半村 博美 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	加齢現象を人間の生理的現象としてとらえ、老年期の対象の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、老年看護の機能と役割を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 老年期の理解 1) 「老いる」ということ (1)加齢と老化 (2)加齢に伴う身体的・心理社会的変化 (3)老いのイメージ (高齢者疑似体験) 2) 老いを生きるということ (1)高齢者の定義 (2)発達と成熟：老年期の発達課題 2 高齢者の加齢変化 1) 身体に加齢変化 2) 高齢者のこころ 3) 高齢者のかかわり 4) 高齢者の暮らし 5) 高齢者の生きがい						講義
5回	3 高齢者疑似体験						演習
6回	4 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 (1)高齢者対するスティグマ (2)エイジズム (3)権利擁護 (アドボカシー) 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度 (1)成年後見制度 (2)日常生活自立支援事業						講義
7回	5 老年看護の役割 1) 老年看護の特徴 2) 老年看護の役割 3) 老年看護に携わる者の責務						講義
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学 専門Ⅰ 老年看護学① 老年看護学概論 (医学書院) 看護のための人間発達学 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨む。・演習には積極的な参加姿勢を望む。						

科目名	老年看護学援助論 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目：看護師) 外部講師 (実務経験のある保健師)						
ねらい	高齢者を生活者として捉え、生活機能を整える看護と地域で高齢者を支えるシステムを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～3回	1 高齢者のヘルスアセスメント 1) 高齢者のヘルスアセスメント 2) 身体に加齢変化とアセスメント 3) 生活機能のアセスメント ICF 生活機能分類 高齢者総合機能評価 (CGA) 2 ライフヒストリー 1) 高齢者の生活史 2) ライフヒストリーの意義 3) ライフヒストリーの活用 4) ライフヒストリーの展開						講義
4～10回	3 高齢者の生活機能を整える看護 1) 活動 (1)基本動作と環境のアセスメント (2)転倒のアセスメントと看護 (3)廃用症候群のアセスメントと看護 2) 食事・食生活 (1)高齢者における食生活の意義 (2)高齢者の摂食障害の特徴 (3)食生活・栄養状態のアセスメント (4)食生活の支援 3) 排泄 (1)高齢者の排泄ケアの基本 (2)排尿障害のアセスメントと看護 (3)排便障害のアセスメントと看護						
	4) 清潔 (1)高齢者における清潔の意義 (2)高齢者の皮膚の特徴と健康問題 乾燥とかゆみ：皮膚掻痒症 (3)清潔のアセスメントと看護 5) 生活リズム (1)高齢者と生活リズム (2)生活リズムのアセスメントと生活リズムを整える看護 6) コミュニケーション (1)高齢者のコミュニケーション上の特徴 (2)高齢者とのコミュニケーションの原則 (3)コミュニケーション能力のアセスメント (4)高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法						

	<p>7) セクシュアリティ (1)高齢者のセクシュアリティの特徴 (2)高齢者の性に関する問題 (3)セクシャル리티のアセスメントと看護</p> <p>8) 社会参加 (1)高齢化の現状と目指す社会の方向性 (2)地域における高齢者の社会参加</p>	講義
11～12回	<p>4 高齢者とヘルスプロモーション 1) 老年期のヘルスプロモーション 2) 介護予防とヘルスプロモーション 3) 「住み慣れた場所で最期まで」を実現する地域包括ケア</p> <p>5 保健医療福祉施設および居住施設における看護 1) 介護保険施設 2) 地域密着型サービス 3) 住まい</p> <p>6 多職種連携における看護活動</p>	
13～15回 (45分)	<p>7 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族 1) 看護家族の健康と生活 (1)家族の形態と機能の変化 (2)家族による介護 2) 家族への援助 (1)家族のアセスメントの視点 (2)介護家族への援助</p>	
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨む。 ・演習には積極的な参加姿勢を望む。	

科目名	老年看護学援助論Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	老年期にある対象の健康障害の特徴と健康障害の応じた援助の方法を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 老年症候群の特徴 1) 老年症候群とは 2) 老年症候群の分類 2 腰背痛 1) 腰背通の成因と分類 2) 腰背痛の治療と看護 3 転倒・骨折 1) 転倒のハイリスク選定と予防 2) 骨折の予防 3) 施設内転倒防止の看護 4 フレイル 1) フレイルとは 2) フレイルの基準 3) フレイルの原因 4) フレイルの進行とサルコペニア 5) フレイルの治療と予防						講義
3回	5 感覚器障害（視覚・聴覚） 1) 感覚器障害の成因と分類 2) 感覚器障害の治療と看護 (1) 白内障 (2) 難聴						
4・5回	6 嚥下障害 1) 嚥下障害の成因と分類 2) 嚥下障害の評価と検査 3) 嚥下障害の治療と看護 (1) 誤嚥・窒息の予防 (2) 口腔機能改善ケア						
6・7回	7 熱中症 1) 熱中症の成因と分類 2) 熱中症の治療と看護 8 脱水症 1) 脱水症の成因と分類 2) 脱水症の治療と看護 9 やせ・低栄養 1) やせの成因 2) やせの治療と看護						講義
8回	10 排尿障害（尿失禁） 1) 排尿障害の成因と分類 2) 排尿障害の治療と看護 11 便秘 1) 便秘ケア						

9回	12 皮膚障害 1) 褥瘡 (1) 診断と評価 (2) 予防・治療 2) 皮膚掻痒症 (1) 皮膚掻痒症の成因 (2) 予防とケア 3) 疥癬 (1) 症候と診断 (2) 治療と感染予防対策	
10・11回	13 睡眠障害 1) 睡眠障害の成因と分類 2) 睡眠の治療と看護 14 うつ 1) 病態と生理学的特徴 2) うつの症状と生活への影響 3) うつの治療とケア 15 せん妄 1) せん妄の鑑別診断 2) せん妄の治療と看護	
12・13回 (45)	16 心不全 1) 病態と生理学的特徴 2) 心不全の症状と生活への影響 3) 看護の実際 (1)心不全症状緩和ケア (2)慢性心不全急性増悪予防ケア 17 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 1) 病態と生理学的特徴 2) 慢性閉塞性肺疾患の症状と生活への影響 3) 看護の実際	
14回	18 パーキンソン病 1) 病態と生理学的特徴 2) 症状と生活への影響 3) 看護の実際	
15回	19 感染症 1) 病態と生理学的特徴 2) 主な症状と心身及び社会生活への影響 3) インフルエンザの治療と援助 4) 肺炎の治療と援助 5) 感染性胃腸炎の治療と援助 6) 罹患予防と感染拡大の防止策	
(45分)		試験
評価方法	筆記試験で評価する。	
必須資料	系統看護学 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・科目内容が細分化しており、複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、休まずに出席できるよう体調を整えること。 ・予習・復習して臨むこと。 ・科目が細分化され、複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、欠席しないように授業に臨むこと。 	

科目名	老年看護学援助論Ⅲ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(実務経験のある授業科目:看護師) 外部講師(実務経験のある授業科目:看護師)						
ねらい	高齢社会における認知症の実態を理解するとともに、認知症予防の看護や認知症高齢者の看護を理解する。また、高齢者のエンドオブライフケアを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 認知症と社会制度 1) 認知症高齢者数の推移 2) 認知症をとりまく制度の変遷 2 認知症の予防 1) 認知症の病態と症状 2) 認知症の診断に必要な検査と生活機能評価 3) 認知症の治療と予防 (1)薬物療法 (2)非薬物療法 ①24時間リアルタイム介入 ②バーリゲーション療法 ③回想法 3 認知症高齢者の看護 1) 認知症看護の原則 2) 認知症高齢者とのコミュニケーション方法 3) 認知症高齢者の環境整備 4) 急性期医療における認知症高齢者の看護 4 家族介護者への支援						講義
5回	5 高齢者の検査時の看護 6 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象 (薬物有害作用) 3) 老年症候群と薬物有害事象 4) 薬物療法における看護職の責務						
6・7回	7 高齢者におけるエンドオブライフケア 1) 「生ききる」ことを支えるケア (1)日本人の死生観 (2)死の準備状況 2) 意思決定への支援 (1)高齢者の尊厳を守るための支援 (2)アドバンスケアプランニング 3) 末期段階に求められる援助						
(45分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学(医学書院) 系統的看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。						

2024 年度 教育課程

専門分野 (小児)

小児看護学

構築の考え方

小児看護学は、あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に、看護が実践できる基礎的能力を養う領域として位置づける。

小児期は、成長・発達においてきわめて変化に富んだ多様な時期であり、常に環境との相互作用の中で成長発達を遂げる、生涯にわたる人間形成の基盤を養う時期として重要である。

少子化が進み、核家族化や女性の就業率の上昇、離婚率の上昇に伴い、家族の意識と役割は多様化している。このような子どもを取り巻く社会環境の変化に伴い、子どもの生活習慣病の増加、こころの問題、思春期の子どもの自殺、育児不安、児童虐待などが増加している。

このような変化の中で、子どもの健康問題の経過やおかれている状況、症状から見た看護、コミュニケーションを含む看護技術や代表的な健康問題などを学習する意義は大きい。

また、入院中の子どもだけではなく、家庭や学校などの生活場面および災害時において、すべての健康レベルの子どもとその家族が健やかに成長・発達していけるように考えることが必要である。

さらに、子どもを一人の人格ある存在として捉え、子どもの権利を尊重し、子どもと家族の価値観や意向を支援する必要がある。

以上のことから、小児看護学の授業科目構造は、小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4単位（105時間）並びに小児看護学実習2単位（90時間）とし、合計単位数は6単位（195時間）とする。

小児看護学概論では、小児期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と、社会との関係の中で健全に成長・発達を遂げるための看護の役割を理解する。

小児看護学援助論Ⅰでは、小児の成長発達における健康の意義を理解し、健康の保持増進、成長発達を促すための基本的技術や、健康障害児の診断・治療に伴う基礎的看護技術を理解する。

小児看護学援助論Ⅱでは、子どもにおこりやすい主な健康障害の原因・症状・治療の基礎的知識を理解する。

小児看護学援助論Ⅲでは、子どもにおこりやすい主な健康障害に応じた看護を実践するための基礎的知識と、援助技術を理解する。

小児看護学実習では、健康な子どもの成長・発達の理解や基本的生活習慣の獲得・自立促進を目指したかかわりと、健康障害を持つ子どもと家族の理解並びに、健康障害や対象特性に合わせた看護の役割と機能を理解する。

小児看護学

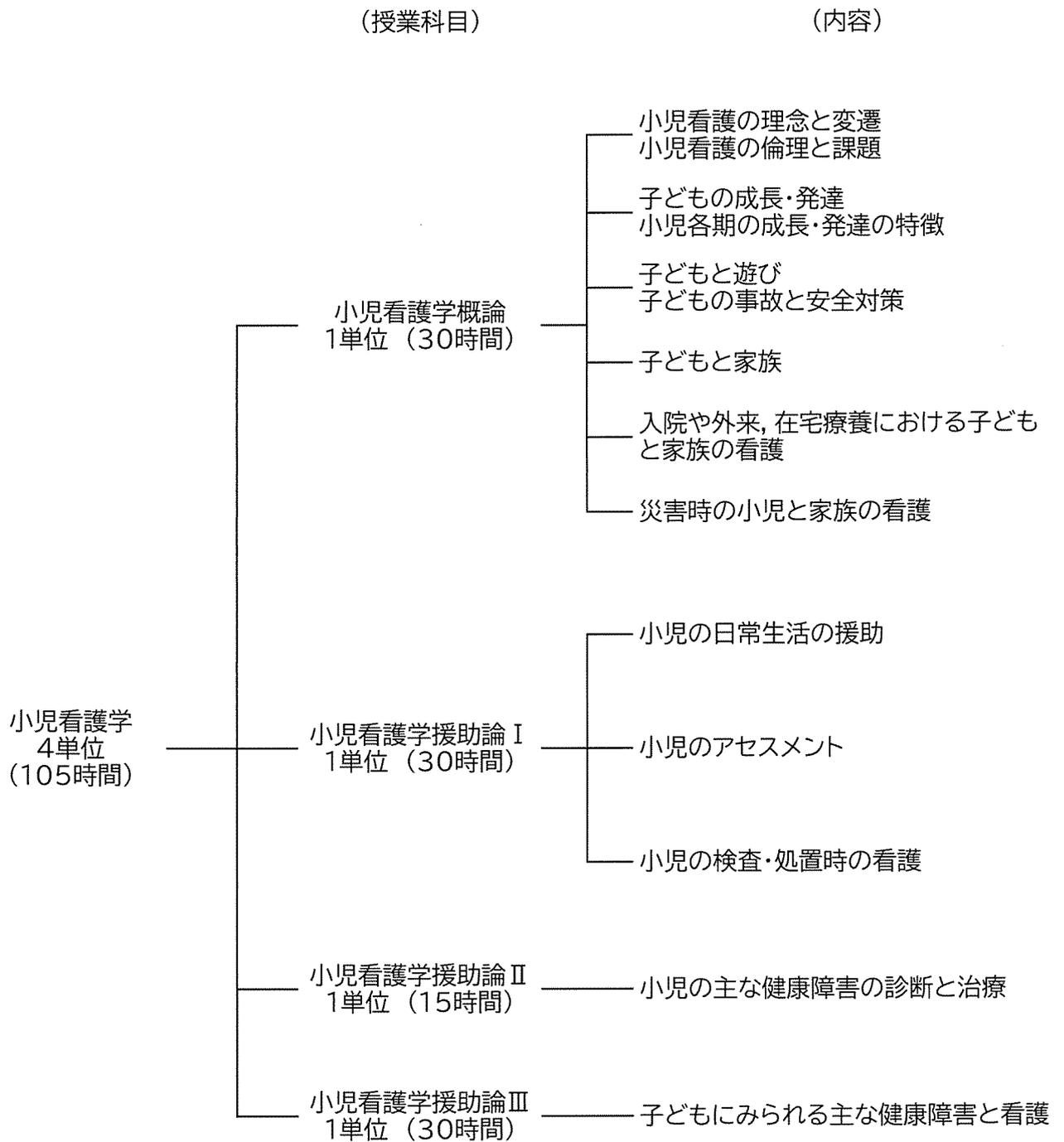
目 的

小児期にある対象の特徴を理解し、小児の成長発達に応じた養護と健康障害をもつ小児および家族の看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 小児各期にある対象の特徴を理解する。
- 2 小児各期の成長発達の意義を理解し、健康の保持増進に必要な看護の役割を理解する。
- 3 健康障害や治療が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、対象の状態に応じた看護の方法を理解する。
- 4 小児を取り巻く社会の動向をふまえ、小児と家族を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

小児看護学 科目構造



科目名	小児看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	龜山 千里 (実務経験のある授業科目：看護師) 藤岡 寛 (")						
ねらい	小児期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と、社会との関係の中で健全に成長発達を遂げるための看護の役割を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1回	1 小児看護の理念 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 2 小児観と小児医療・小児看護の変遷 3 小児看護における倫理 1) 子どもの権利 2) 医療・治療の選択と決定 4 小児看護の課題						講義
2回	5 子どもの成長・発達 1) 成長・発達とは (1)成長・発達の原則 (2)発達段階と発達課題 (3)エリクソンの自我発達理論 (4)ピアジェ認知発達理論 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響する因子 4) 小児の発達・発育評価 (1)成長の評価 (2)発達の評価						
3～7回	6 小児各期の成長・発達の特徴 1) 新生児の形態的・身体生理の特徴・各機能の発達 2) 乳児の形態的・身体生理の特徴・各機能の発達 3) 幼児の形態的・身体生理の特徴・各機能の発達 4) 学童の形態的・身体生理の特徴・各機能の発達 5) 思春期・青年期の子どもの形態的・身体生理の特徴・各機能の機能と発達						
8回	7 子どもと遊び 1) 小児にとっての遊びの定義 2) 遊びの分類 3) 遊びの発達 4) 遊びに対する大人の関わり						
9回	8 子どもの事故と安全対策 1) 子どもの事故の状況 2) 子どもの事故防止対策 (1)子ども自身の対策 (2)家庭環境での対策 (3)社会環境での対策						

10回	<p>9 子どもに関わる現代社会の問題</p> <p>1) 現代の家族状況とケア (1) 育児不安 (2) 児童虐待</p> <p>2) 心と行動の健康状態とケア 不登校・いじめ・拒食・過食</p> <p>3) 身体健康状況とケア 生活習慣病</p>	
11・12回	<p>10 子どもと家族</p> <p>1) 現代家族の特徴</p> <p>2) 家族の機能と役割</p> <p>3) さまざまな状況の家族</p> <p>3) 医療費支援</p> <p>4) 予防接種 (1) 予防接種の歴史 (2) 現在の予防接種</p>	
13～15回 (45分)	<p>11 入院中の子どもと家族の看護</p> <p>1) 入院環境と看護の役割</p> <p>2) 入院中の子どもと家族の特徴と看護</p> <p>12 外来における子どもと家族の看護</p> <p>1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割</p> <p>2) 外来の環境</p> <p>13 在宅療養中の子どもと家族の看護</p> <p>1) 子どもを取り巻く社会資源</p> <p>2) 学校など多様な生活の場と看護の役割</p> <p>14 災害時の小児と家族の看護</p> <p>1) 被災地の環境と看護の役割</p> <p>2) 災害時の小児と家族の援助</p>	
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・臨床看護総論 (医学書院) 看護のための人間発達学 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。	

科目名	小児看護学援助論 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目：助産師)						
ねらい	小児の成長発達における健康の意義を理解し、健康の保持・増進、成長発達を促すための基本的技術や、健康障害時の検査・治療に伴う基礎的看護技術を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～3回	1 小児の日常生活援助の基本 1) 養護と基本的な生活習慣自立への援助 2 小児各期の日常生活援助技術 1) 新生児, 乳児期 (1)調乳方法と授乳の仕方 (3)遊び (2)おむつのあて方 2) 幼児期 (1)トイレトレーニング (3)遊び (2)衣類の着脱の仕方 (4)安全 3) 学童期 (1)遊びと学習 (2)安全教育 4) 思春期 (1)生活指導						講義
4回	おむつ交換・調乳法						演習
5～7回	3 アセスメントに必要な技術と進め方 1) コミュニケーション 2) 身体計測 (身長・体重・胸囲・頭囲) 3) バイタルサイン測定 (体温・呼吸・脈拍・心拍数) 4 身体的アセスメント 1) 観察の基本方法 (問診・視診・聴診・触診) 2) 呼吸のアセスメント 3) 心臓・循環系のアセスメント 4) 腹部のアセスメント						講義
8回	バイタルサインの測定						演習
9～14回 (45分)	5 小児にとっての検査・処置体験 6 発達に応じたプレパレーション 7 検査・処置の看護 1) 与薬 (1)小児の薬物動態 (2)経口 (3)注射 (4)座薬 2) 輸液管理 3) 抑制 4) 検体採取 (1)採血 (2)採尿 (3)採便 (4)骨髄穿刺 (5)腰椎穿刺 5) 浣腸 6) 酸素療法 7) 吸引 8) 救命処置 (1)CPR (2)人工呼吸法						講義
15回 (45分)	採血・点滴のシーネ固定・採尿						演習
評価方法	筆記試験で評価する。						試験

必須資料	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論総論 (医学書院)
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。 ・演習には、講義で使用した資料やテキストの該当箇所を復習して臨むこと。 ・演習時間は限られているので、積極的な参加態度を臨む。また、わからないところは、演習の際に担当する教員に積極的に質問し、技術習得に努めること。

科目名	小児看護学援助論Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師(実務経験のある授業科目:医師)						
ねらい	子どもにおこりやすい主な健康障害の原因・症状・診断・治療の基礎知識を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1回	1 小児にみられる主な健康障害 1) 呼吸器疾患 (1) 急性咽頭炎・扁桃炎 (4) 肺炎 (2) クループ症候群 (5) 気道異物 (3) 急性細気管支炎 (6) 百日咳						講義
2回	2) 血管炎をきたす疾患 (1) 川崎病 (2) 血管性紫斑病 3) 腎疾患 (1) 急性糸球体腎炎 (2) ネフローゼ症候群 (3) 溶血性尿毒症症候群						
3回	4) ウイルス感染症 (1) 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・突発性発疹 5) 1型糖尿病 6) 神経疾患 (1) けいれん性疾患 (2) 脳性麻痺 (3) 髄膜炎						
4回	7) 筋疾患 (1) 進行性筋ジストロフィー 8) 消化器疾患 (1) 腸重責 (4) ヒルシュスプリング病 (2) 胆道閉鎖症 (5) 肥厚性幽門狭窄症 (3) 鼠経ヘルニア						
5～7回	9) アレルギー性疾患 (1) 気管支喘息 (2) 食物アレルギー 10) 先天性心疾患 (1) 心室中隔欠損 (2) ファロー四徴症 11) 血液疾患 (1) 貧血 (2) 出血性疾患 (3) 白血病 12) 悪性腫瘍 13) 先天異常 (1) ダウン症候群 (2) ターナー症候群						
(45分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児看護学各論(医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・小児の看護に必要な疾患の病態生理・検査・治療の講義なので、積極的な授業姿勢を望む。						

科目名	小児看護学援助論Ⅲ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師 (実務経験のある授業科目: 助産師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師) 外部講師 (実務経験のある授業科目: 看護師)						
ねらい	子どもにおこりやすい主な健康障害に応じた看護の基礎的知識を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1回	1 子どもにみられる主な健康障害と看護 1) 呼吸器疾患の看護 (1) かぜ症候群の子どもの看護 (2) 肺炎の子どもの看護						講義
2回	2) 循環器疾患の看護 (1) 川崎病の子どもの看護						
3回	(2) ファロー四徴症の子どもの看護						
4回	3) 消化器疾患の看護 (1) 形態異常のある疾患の子どもの看護 ①肥厚性幽門狭窄症 ②鎖肛 ③胆道閉鎖症 (2) 腸重積症の子どもの看護						
5回	4) 血液・造血器疾患と看護 (1) 出血傾向のある子どもの看護 ①血友病 ②再生不良性貧血 (2) 輸血療法を必要とする子どもの看護						
6回	5) 悪性腫瘍と看護 (1) 診断時・治療を受ける子どもの看護 (2) 移行期・再燃時の看護						
7回	6) 腎・泌尿器疾患の看護 (1) 腎泌尿器疾患看護総論 (2) ネフローゼ症候群の子どもの看護 (3) 溶レン菌感染後急性糸球体腎炎の子ども看護						
8回	7) 神経疾患の看護 (1) 痙攣のある子どもの看護 (2) 脳性麻痺の子どもの看護						
9回	8) 運動器疾患の看護 (1) 牽引中・ギブス装着中の子どもの看護						
10～11回	9) 代謝性疾患と看護 (1) 1型糖尿病をもった子どもの看護 10) アレルギー疾患と看護 (1) 食物アレルギーを持った子どもの看護 (2) 気管支喘息の子どもの看護						
12～13回	11) ウイルス感染症の看護 (1) 子どもの感染に関する基本的知識と看護 (2) 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の子どもの看護 12) 先天異常と看護 (1) ダウン症候群の子どもの看護						講義

14～15回 (45分)	13) 事故・外傷と看護 (1) 頭部外傷 (2) 誤飲窒息 (3) 溺水 (4) 熱傷 (5) 熱中症	
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児看護学各論 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・科目内容が細分化されており，複数の講師が担当するので，出席は自己管理のうえ，欠席で済むように健康管理に留意すること。 ・既習の小児看護学援助論Ⅱ（疾患）の復習をして臨むこと。 	

2024 年度 教育課程

專門分野（母性）

母性看護学

構築の考え方

母性看護学は、看護の対象である人間を性と生殖の側面からとらえ、母性機能が健全に発達し、その機能が十分に発揮できるよう援助できる能力を養う領域として位置づける。

近年、女性の社会進出と生き方が多様化し、出産・育児にこだわらず、自分らしい生き方を選択する女性が増え、未婚率・非婚率の上昇や、「産まない選択」をする女性の増加に呼応するように、日本の少子化は歯止めがかからない。

また、女性の価値観の多様化に伴い、晩婚化とともに出産開始年齢の高齢化に伴う不妊症の増加・生殖補助医療の発展や、生命誕生に対する倫理観も多様化している。

一方で、性行為開始年齢の低年齢化とそれに伴う10代の性行為感染症（STD）や、若年者の人工妊娠中絶の増加など、女性を取り巻く社会環境は複雑に変化している。

さらに、核家族化・少子化の進展に伴う子どもとふれあう機会や育児体験の減少は、出産後の育児不安の増加を招き、専門家による子育て支援の必要性が増している。

このような社会背景から、母性看護学の対象は、次世代を担う子を産み育てる女性だけでなく、周産期を中心とした「産む性」としての女性や父性としての男性、さらには、人間の生の出発地点である家族を含め、広い視野で捉える必要性が大きくなっている。

これらのことから、看護基礎教育における母性看護学では、看護の対象を性と生殖の健康と権利（リプロダクティブヘルス／ライツ）という観点から理解する。また、人類誕生から脈々と受け継ぐ種の保存と、人間においての「生」と「性」の重要性を理解する。さらに、周産期における対象は健康であることを念頭において、日常生活における基本的なセルフケア能力を維持・促進できるよう援助を行うことに焦点をあてる。一方で、妊娠・出産は母子ともに生命の危機的状況に陥ることもある。常に、正常と異常が表裏であること、母子は一体であることを念頭において支援することが重要である。

さらに、学生は、次世代を担う母性・父性を豊かに育むべき対象者であることから、学生自身が生命の尊さと次世代の誕生に必要な母性及び父性、家族の重要性を理解し、健全な母性観・父性観を育むことができるように支援する。

以上のことから、母性看護学の授業科目構造は、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4単位（90時間）並びに母性看護学実習2単位（90時間）とし、合計単位数は6単位（180時間）とする。

母性看護学概論は、母性看護の概念、人間の性と生殖、母性看護学領域における対象の特徴や、母性の対象を取り巻く環境と諸問題について理解する。

母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱは、妊娠・分娩・産褥各期の経過と新生児の経過について理解し、妊娠・分娩・産褥期及び新生児期が順調に経過するための看護師の役割と看護を理解する。

母性看護学援助論Ⅲは、女性のライフサイクル各期における健康問題と保健活動について理解する。

母性看護学実習は、周産期における対象特性（妊娠期・分娩期・産褥期の連続性）や、母子を一体として捉える領域特性を理解し、それぞれの時期の対象に応じた看護を実践する基礎的能力を習得する。

母性看護学

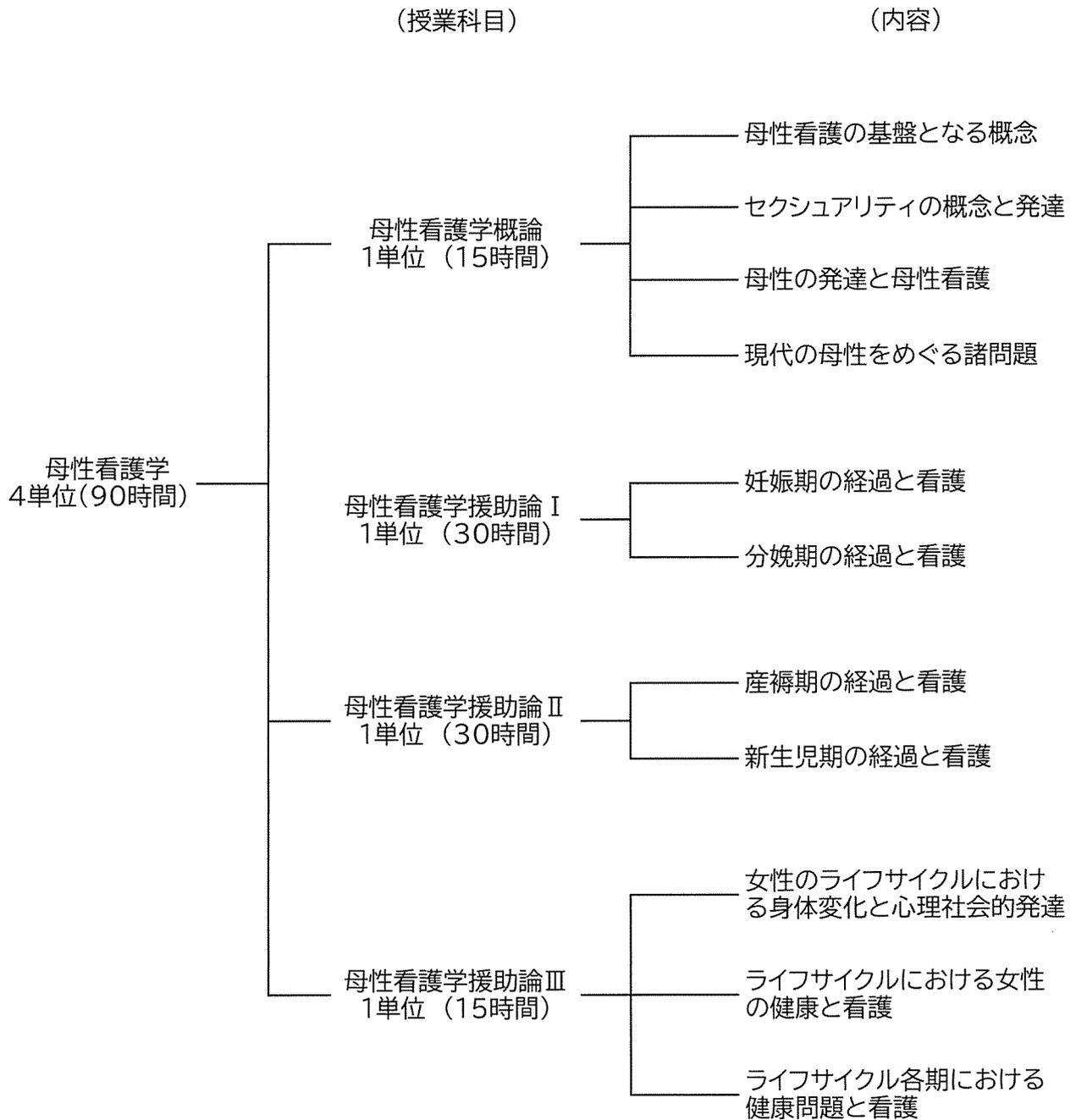
目 的

看護の対象である人間を性と生殖の側面からとらえ、母性機能が健全に発達し、その機能が十分に発揮できるよう援助するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 母性看護の対象の特徴を理解する。
- 2 母性対象を取り巻く社会環境や、母性の健全育成のために必要な援助のあり方を理解する。
- 3 周産期にある対象に必要な援助の方法を習得する。
- 4 母性看護の対象を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。
- 5 生命倫理について理解を深めるとともに、生命を尊重する態度を培い、学習者自身の母性性・父性性を養う。

母性看護学 科目構造



科目名	母性看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	1年
担当者名	佐藤 三恵子 (実務経験のある授業科目：助産師)						
ねらい	性と生殖の側面から母性看護の対象の特徴を理解し、母性看護の機能と役割を理解するとともに、多様化する現代社会における課題を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1回	1 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは 2) 母性看護学の対象 3) 母性看護学を学ぶ意義 2 セクシュアリティの概念と発達						講義
2・3回	3 性周期とリプロダクティブヘルス/ライツ 4 母性の発達と母性看護 1) 親になることと母性・父性 2) 母性看護の対象 3) 母性看護の目標と看護活動の場						
4～7回	5 母子の健康支援施策 1) 妊娠・出産にかかわる施策 2) 育児にかかわる施策 6 母性看護をめぐる諸問題 1) 国際化社会における課題 2) 児童虐待と母(父)子関係の課題 3) リプロダクティブヘルスケア (1)家族計画(避妊法含む) (2)性感染症 (3)人工妊娠中絶 (4)喫煙・飲酒 (5)性暴力 4) 多様な性のあり方：性的マイノリティ(LGBT含) 5) 遺伝的課題 6) 不妊						講義 GW
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験 GWへの参加 レポート課題 } 総合的に評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論(医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・出席時間は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。・ゲル-パークには積極的な参加姿勢を望む。						

科目名	母性看護学援助論Ⅰ（妊娠期・分娩期の対象理解と看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：助産師） 本校職員（実務経験のある授業科目：助産師）						
ねらい	妊娠期・分娩期における対象の身体的・心理的・社会的特徴と正常な経過について理解し、対象が各期に適応し、母子ともに安全・安楽に経過するための看護の役割と対象に応じた看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<妊娠期> 1回	1 マタニティサイクルとは 2 妊娠期の身体のしくみと疾患の理解 1) 妊娠期の身体的特性と心理社会的特性 妊娠の定義とメカニズム 妊娠に伴う母体の変化と心身社会的変化 胎児の成長・発達						講義
2回	2) ハイリスク妊娠 ハイリスク妊娠の定義と管理 3) 妊婦と胎児にみられる異常						
3・4回	3 妊娠期における看護 1) 健康診査 2) 妊娠各期の保健指導 3) 合併症をもつ妊婦のケア						
5・6回	レオポルド触診法 子宮底・腹囲の測定						演習
7・8回 (45分)	4 健康問題をもつ妊婦のケア 1) 切迫流早産 2) 妊娠高血圧症候群 3) 糖尿病合併妊婦と妊娠糖尿病						講義
<分娩期> 1～3回	5 分娩時の身体のしくみと正常からの逸脱の理解 1) 分娩の生理 分娩の三要素と分娩経過 2) 産痛と無痛分娩 3) 産婦の心理社会的変化 4) 産婦にみられる異常						講義 DVD 視聴
4～7回	6 分娩期における看護 1) 分娩開始前の看護 2) 分娩第Ⅰ期の看護 3) 分娩第Ⅱ期の看護 4) 分娩第Ⅲ・Ⅳ期の看護						講義
(45分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整え、欠席しないよう授業に臨むこと。 ・演習には講義で使用した資料・テキストの該当部分を復習して臨むこと。 ・演習時間は限られているので、積極的な参加姿勢と望む。またわからないところは、演習の際に担当教員に積極的に質問し、技術習得に努めること。						

科目名	母性看護学援助論Ⅱ（産褥期・新生児期の対象理解と看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：助産師） 本校職員（実務経験のある授業科目：助産師）						
ねらい	産褥期における対象の身体的・心理的・社会的特徴と正常な経過を理解するとともに、新生児の正常な経過を理解し、それぞれの対象が各期に適応し、安全・安楽に経過するための看護の役割と対象に応じた看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<産褥期> 1～3回	1 産褥期の身体のしくみと疾患の理解 1) 産褥の経過 身体的変化：退行性変化と進行性変化 心身社会的変化 2) 褥婦にみられる異常						講義
4・5回	2 産褥期・育児期における看護 1) 産褥経過のアセスメント 2) 母親になる過程の看護 3) 母子の健康を促す看護						
6・7回	3 健康問題をもつ褥婦の看護 1) 乳房トラブルをもつ褥婦の看護 2) マタニティーブルーと産後うつ						
<新生児> 1・2回	4 新生児の身体のしくみと疾患の理解 1) 新生児の生理 2) 子宮外環境への適応 呼吸・循環・体温 ビリルビン代謝・水電解質代謝 消化と吸収 神経系：反射 感覚機能 免疫						講義
3回	3) 新生児にみられる異常						
4・5回 (45分)	5 新生児の看護 1) 出生直後から24時間の看護 2) 移行期後の看護 3) 生後1ヶ月健診に向けた看護						講義 GW
6・7回	新生児のバイタルサインの測定・アセスメント・身体計測 沐浴（衣服の着脱・際の処置含む）						演習
8回	6 健康問題をもつ新生児の看護 1) 高ビリルビン血症児の看護 2) 低出生体重児の看護 3) ハイリスク新生児の看護						講義
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験 レポート GWへの参加姿勢 } 等総合的に評価する。						
必須資料	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。 ・演習には、講義で使用した資料・テキストの該当箇所を復習して臨むこと。 ・演習時間は限られているので、積極的な参加姿勢を望む。また、わからないところは、演習の際に担当する教員に積極的に質問し、技術の習得に努めること。 ・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。 						

科目名	母性看護学援助論Ⅲ（母性保健）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （15 時間）	対象 年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：助産師）						
ねらい	女性や家族のライフサイクルにおける健康課題や，母性各期の保健活動について理解し，次世代育成や母性の健全な発達のための援助を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
1・2回	1 女性のライフサイクルにおける身体変化 2 女性としての心理・社会的発達					講義	
3～7回	3 ライフサイクルにおける女性の健康と看護 1) 性周期と女性のライフサイクル 2) 性差と女性の健康 3) 女性とメンタルヘルス 4 ライフサイクル各期における健康問題と看護 1) 思春期の健康問題と看護 (1)貧血 (2)初経および月経前緊張症 (3)子宮頸がんの予防行動 (4)摂食障害 2) 成熟期の健康問題と看護 (1)月経困難症 (2)生殖器疾患：子宮筋腫・子宮内膜症・子宮頸部がん 3) 更年期・老年期の健康問題と看護 (1)更年期障害・更年期うつ (2)尿失禁 (3)骨粗鬆症 (4)生殖器悪性腫瘍：子宮体がん (5)ロコモティブシンドローム					講義 GW	
(45分)						試験	
評価方法及び観点	筆記試験 GWへの参加度 レポート } 総合的に評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・出席時間等は自己管理のうえ，体調を整え，欠席しないように授業に臨むこと。・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。						

2024 年度 教育課程

專 門 分 野 (精神)

精神看護学

構築の考え方

精神看護学は、人間の心の健康について理解を深め、精神の健康の保持・増進と人間が生活する過程で生じる心の問題、および精神に障害のある人とその家族に対して援助する能力を養う領域である。

現代社会のさまざまな分野において、情報・消費社会の成熟とともに、国際化や少子高齢化が進み、人間関係の希薄さなども加わり、ストレスをもたらす要因が増大している。また、いじめや虐待問題、依存症、災害、老人の孤独や中高年の自殺者が増加する等、心の問題と密接に関係する事象が社会的問題となっている。

このような状況の中で、心身のバランスが崩れ、精神疾患が増加する傾向にあり、身体的な病をもつ対象にも精神的な健康問題を抱える場合が少なくない。逆に、精神的な健康問題が改善されないことが、身体疾患の回復遅延や悪化をもたらす原因となることもある。よって精神疾患をもつ対象に限らず、すべての対象において身体的ヘルスケアと精神的ヘルスケアを統合したアプローチが求められる。

これらのことから、精神活動に付随しておこる様々なストレスや危機と、それに対する適切な対処法（介入方法を含む）についての理解が必要である。このことは、心の健康の保持・増進を図る看護を提供することにつながるのみならず、学生自身の心の健康を保つことにも有益である。

また、精神障害者をとりまく法の整備も進み、精神障害者の生活の場は病院から地域社会へと広がり、自立支援の視点にたった保健・医療・福祉の活動が行われるようになった。そのためノーマライゼーションの考え方に基づき、精神保健医療福祉に携わる職種が連携し合い、援助する必要がある。さらに、精神障害者を取り巻く法や精神疾患とその看護への理解が必要となる。

以上のことから、精神看護学の授業科目構成は、精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4単位（75時間）並びに精神看護学実習2単位（90時間）とし、合計単位数は6単位（165時間）とする。

精神看護学概論では、精神看護学の基本的な考え方を学び、心の危機と危機の回避、危機からの回復の視点を理解する。

精神看護学援助論Ⅰでは、学校・職場等の社会生活の場における精神保健、看護師の役割と活動を理解する。

精神看護学援助論Ⅱでは、主な精神疾患の症状や治療と疾患が日常生活に及ぼす影響を理解するとともに、精神に障害を持つ対象への看護を理解する。

精神看護学援助論Ⅲでは、地域精神医療の意向とその基盤となる考え方を理解するとともに、精神に障害をもちながら地域で生活するための支援の実際を理解する。

精神看護学実習では、精神疾患が対象の日常生活に及ぼす影響や日常生活を維持するための看護を理解するとともに、精神に障害をもちながら地域で生活する対象の看護や、多職種の関係職種との連携支援について理解する。

精神看護学

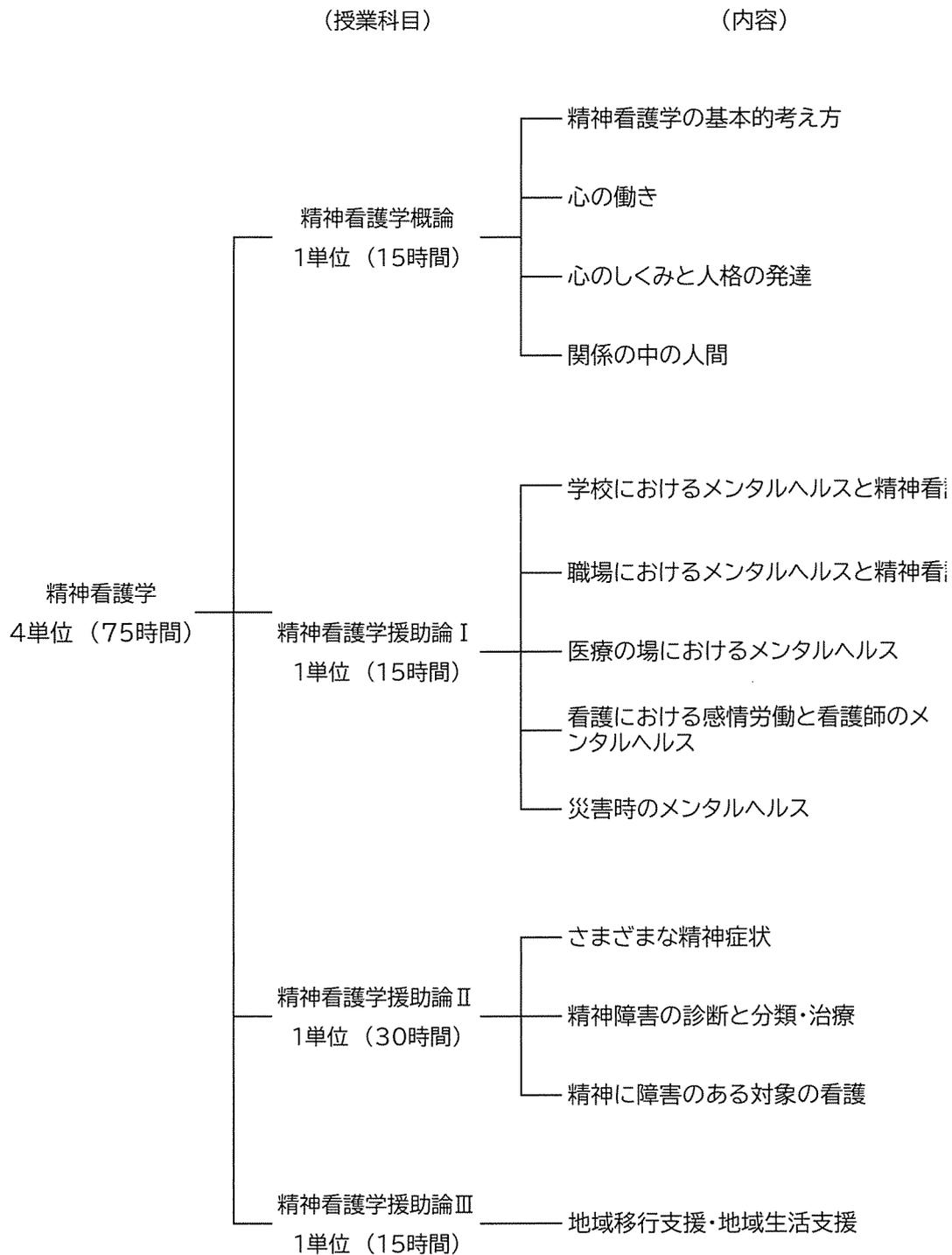
目 的

人間の心の働きを理解し、心の健康の保持増進および精神に障害をもつ人とその家族の看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 人間の心の発達と働きを理解する。
- 2 心の健康の保持増進および障害を予防するための看護を理解する。
- 3 精神障害をもつ人とその家族の特徴および障害に応じた看護を理解する。
- 4 精神保健医療福祉チームの連携のあり方と看護の役割を理解する。

精神看護学 科目構造



科目名	精神看護学概論						
科目区分	専門Ⅱ	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	1年
担当者名	進藤 純平 (実務経験のある授業科目：臨床心理士) 川北 美沙 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	精神看護学の基本的な考え方を学び、心の危機と危機の回避と回復の視点を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 精神看護学の基本的な考え方 2 精神看護学で学ぶこと 3 心のケアと日本社会（5大疾病） 4 精神看護の課題 1) 世界から見た日本の精神科医療の課題 2) 多様化する精神科医療のニーズ 3) 入院治療から地域生活支援へ 5 社会の中の精神障害 1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神医学・精神医療の流れ 3) 精神障害と文化－多様性と普遍性 4) 精神障害と社会学 (1) 逸脱とスティグマ 社会的烙印 (2) 貧困と精神障害（ソーシャルインクルージョン） 5) 看護師・医療者が法律を活用することで果たせる役割 6) 人権擁護						講義
5～7回	1 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響 (1) ストレス反応・ストレッサー (2) ストレスの社会文化的側面（ライフイベント） (3) 精神的危機と危機介入 (4) ストレスの対処（コーピング） 3) 心的外傷（トラウマ）と回復（リカバリー） (1) トラウマ体験とサバイバーの心理 (2) 成長発達に及ぼす影響（マルトリートメント） (3) レジリエンス 4) 精神障害という考え方 (1) 精神障害者の法的定義 (2) 国際生活機能分類（ICF）の考え方 (3) 精神保健における予防概念						
(45分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨む。						

科目名	精神看護学援助論Ⅰ（精神保健）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （15時間）	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	学校・職場などの社会生活の場における精神保健, 看護師の役割と活動を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～3回	1 学校におけるメンタルヘルスと精神看護 1) 学校におけるメンタルヘルス上の課題 2) チームとしての学校 3) 特別な配慮が必要な児童生徒の支援 (1) 発達障害と特別支援教育 2 職場におけるメンタルヘルスと精神看護 1) 働く人の心の健康問題の現状と予防対策 2) 職場復帰支援制度						講義
4～6回	3 医療の場におけるメンタルヘルス 1) リエゾン精神看護の歴史 2) リエゾンナースの役割 3) リエゾンナースの活動の実際 4 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1) 看護師の不安と防衛 2) 感情労働としての看護 3) 看護師の感情ワーク 4) 看護における共感の光と影 5) 感情労働の代償と社会 6) 共感疲労予防						
7回	5 災害時のメンタルヘルス 1) 災害時の心理的反応 2) 災害時の心理的回復プロセス 3) 地域における災害時の心のケアのアプローチ 4) 支援者に対するメンタルヘルス対策						
(45分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院) 別巻 精神保健福祉 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	精神看護学援助論Ⅱ（精神疾患の症状・検査・治療と看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：医師） 外部講師（実務経験のある授業科目：医師） 外部講師（実務経験のある授業科目：医師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	主な精神疾患の症状や治療と、疾患が日常生活に及ぼす影響を理解するとともに、精神に障害をもつ対象への看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<対象理解> 1回	1 さまざまな精神症状 1) 思考の障害 2) 感情の障害 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害 5) 意識の障害 6) 記憶の障害 7) 局在症状						講義
2～4回	2 精神障害の診断と分類 1) 診断と疾病分類 2) 統合失調症 3) 気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群〕 4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (1) 恐怖症性不安障害 (2) 強迫性障害①強迫観念②強迫行為 (3) 重度ストレス反応及び適応障害 ① 急性ストレス障害 (ASD) ② 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) ③ 適応障害 5) 精神作用物質による精神および行動の障害 (1) アルコール症 (2) ゲーム障害 6) 各発達段階で現れやすい精神障害・心的不調 (1) 発達障害 ① 自閉症スペクトラム障害 (ASD) ② 注意欠如・多動生障害 (ADHD) (2) 摂食障害 (3) パーソナリティ障害						
5回	3 主な治療法 1) 精神療法 2) 薬物療法 3) 電気けいれん療法 3) 環境療法・社会療法						

<p><看護> 1・2回</p>	<p>1 ケアの人間関係 1) ケア的前提 2) ケアの原則 3) ケアの方法 4) 関係をアセスメントする (1) プロセスレコードの活用と書き方・読み方 5) 患者 - 看護師関係における感情体験</p>	<p>講義</p>
<p>3回</p>	<p>2 入院治療の意味 1) 入院という体験 (1) 入院のかたち ① 任意入院 ② 医療保護入院 ③ 措置入院 ④ 応急入院 (2) 精神科病棟の特徴 (閉鎖・開放病棟・隔離室) 2) 治療の器としての病院・病棟 (1) 入院のメリット・デメリット (2) 治療的環境としての病棟 (3) 入院中の観察とアセスメント</p>	
<p>4・5回</p>	<p>3 精神科における身体ケア 1) 急性期・回復期・慢性期における身体ケア 2) 日常生活における身体ケア 3) 睡眠とケア 4 精神科の治療に伴う身体ケア 1) 薬物療法を受ける患者のケア ① 抗精神病薬の有害反応と看護 ② 服用初期あるいは増量の際にみられる有害反応 ③ 生命の危険を伴う有害反応 2) 電気けいれん療法を受ける患者のケア 5 身体合併症のアセスメントとケア</p>	
<p>6回</p>	<p>6 リスクマネジメント 1) 行動制限と処遇の基準 2) 緊急事態の対処</p>	
<p>7～10回 (45)</p>	<p>7 回復を支援する 1) 回復 (リカバリー) のビジョン 2) 治療の場におけるリカバリーと看護の視点 (1) 急性期病棟の事例 (2) 慢性期病棟の事例 3) リカバリーを促す環境 4) 回復のためのプログラム (1) グループプログラム (2) 疾病管理とリカバリー (IMR) (3) ソーシャルスキルトレーニング (SST) (4) 認知行動療法 (CBT) (5) 当事者研究・マインドフルネス認知療法</p>	
<p>(45分)</p>		<p>試験</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験で評価する。</p>	
<p>必須資料 (テキスト等)</p>	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院)</p>	
<p>参考資料</p>	<p>・授業資料は適宜印刷して配布する。</p>	
<p>履修上の 留意事項</p>	<p>・科目内容が細分化され、複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨むこと。</p>	

科目名	精神看護学援助論Ⅲ（地域移行支援・地域生活支援）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	地域精神医療の移行とその基盤となる考え方を理解するとともに、精神に障害を持ちながら地域で生活するための支援の実際を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 退院に向けての支援とその実際 1) 長期入院がもたらすもの 2) 地域生活への橋渡し (1) 入院生活と地域生活のギャップ (2) 外出・外泊の意味 (3) 退院前訪問 3) 多職種連携による地域移行支援 4) 患者-看護師関係の終わり方						講義
3～7回	2 地域におけるケアと支援 1) 病院から地域への移行 2) 地域における生活支援の方法 (1) 地域で精神障害者を支援する際の原則 (2) 地域生活を支えるシステムと社会資源 障害者総合支援法による障害福祉サービス ピアサポート・ストレングスマodel エンパワーメント 3) 地域におけるケアの方法と実際 (1) ケアマネジメント (2) アウトリーチと多職種連携 (3) 複合的な問題をかかえた長期入院患者の退院支援 (4) 再燃・再発の危機の対処と克服 (5) 家族の支援						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ精神看護学②【精神看護の展開】(医学書院) 系統看護学講座 別冊 精神保健福祉(医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨む。						

2024 年度 教育課程

専門分野 (看護の統合)

看護の統合と実践

構築の考え方

「看護の統合と実践」は、あらゆる医療活動の場・対象の状態や状況に応じて既習の知識・技術を統合し、対象への看護の必要性を判断し、適切な方法で看護を実践できる基礎的能力を養う領域として位置づける。

まず、各看護領域の対象特性や特定の場をふまえた看護過程の展開を学び、看護研究では、基礎的な研究的視点を養うことにより、対象の問題を解決する力や自己研鑽をする力を養う。

現在、医療の進歩で診療の補助はますます高度化・複雑化している。また、患者の高齢化とともに療養の場が多様化したことで、一層些細な気遣いが必要になっている。そのため、医療安全の観点から「してはならないこと」と「すべきこと」を理解し、医療者が医療行為、医療器具、患者に存在する危険を認識する能力を養う。

さらにコロナ禍により一層の感染対策が求められるようになってきている。看護師には、専門的な知識に基づいた判断力と看護実践能力、それぞれの状況においてのマネジメント力が一層求められている。このような状況に対応していけるように看護管理・医療安全を学ぶ。

また、近年の地球温暖化に伴う気候変動や地震等自然災害の頻度や規模が拡大し、被災患者への医療・看護への期待も大きくなっている。医療や看護の活動の場は国内外にかかわらず拡大しており、看護の国際貢献も求められるようになってきている。あらゆる医療活動の場や人々の多様なニーズに応えられるように救急・災害看護、国際看護を学ぶ。

本領域では、知識の習得にとどまらず、想定した場面の中で、既習の知識や技術を想起し統合して使うことを体験することや、臨床に近い環境下での演習を強化することにより、卒業後の臨床現場にスムーズに適応できることをめざす。また、看護師の責務を自覚し、広い視野を持ち、主体的な学習の必要性や看護を追求する姿勢を強化する領域とする。

これらのことから、本科目を設定し、授業の科目構造は、看護の統合と実践Ⅰ～Ⅴ 5単位（90時間）並びに看護の統合と実践実習2単位（90時間）とし、合計単位数は7単位（180時間）とする。

看護の統合と実践Ⅰでは、各看護学領域における対象特性や場の特性を踏まえた看護過程の特徴を理解する。

看護の統合と実践Ⅱでは、看護実践を研究的な視点で考察する意義と、看護の発展のための看護研究の基礎的知識を理解する。

看護の統合と実践Ⅲでは、看護を組織として統括・管理する立場から理解し、チーム医療を担う一員としての役割や態度、看護におけるマネジメントの基礎的知識を理解するとともに、安全な医療を提供するための医療安全の基礎的知識を理解する。

看護の統合と実践Ⅳでは、救急・災害看護の特徴とその看護を実践する基礎的能力を習得するとともに、国際看護の基本理念とその概要を理解する。

看護の統合と実践Ⅴでは、複数の対象への対応や時間的制約の中での看護実践、多重課題など、対象の状況に合わせて看護を考え、優先順位や状況を判断しながら看護を実践する基礎的能力を習得する。

看護の統合と実践

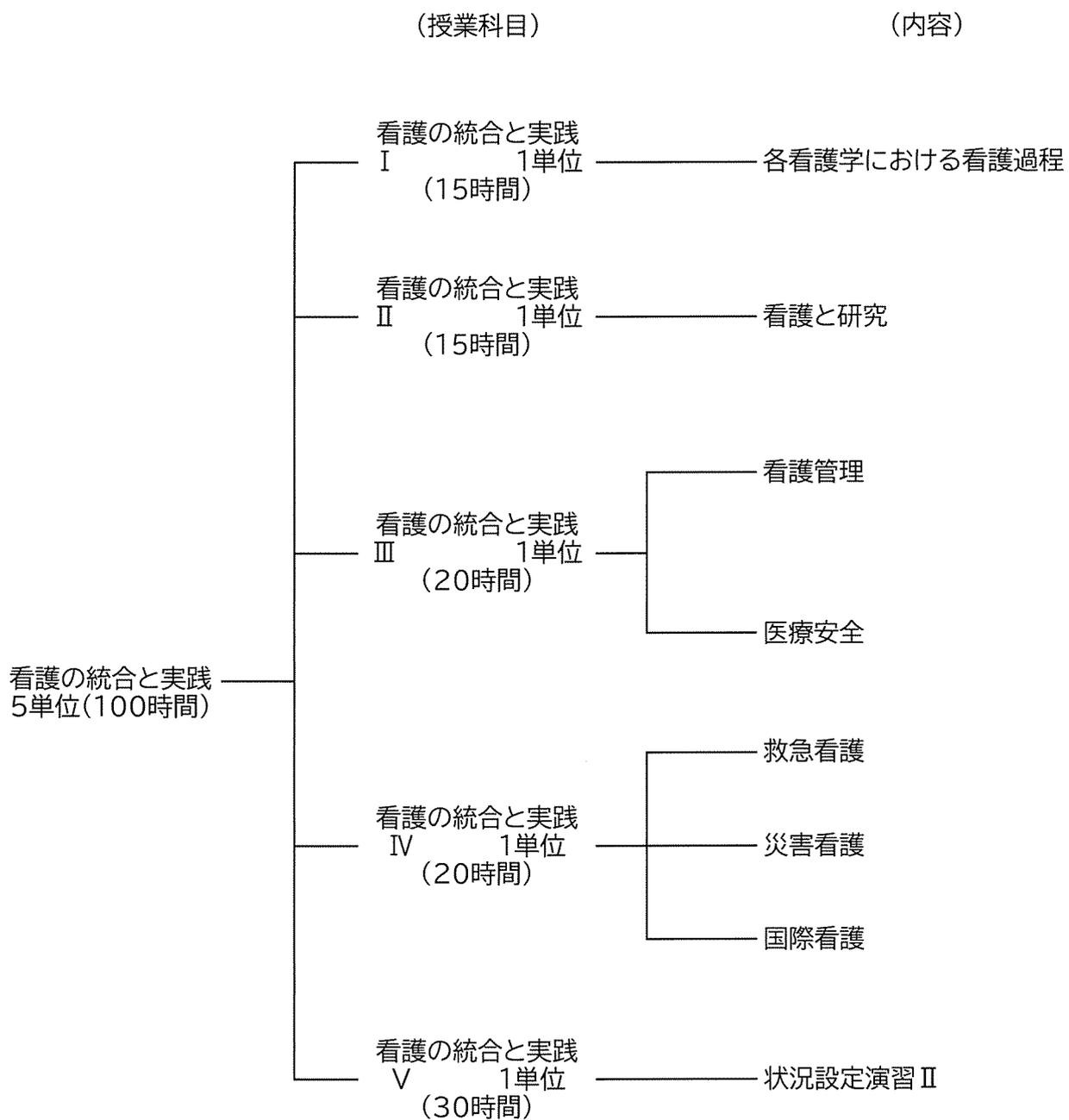
目 的

既習の知識・技術を統合し，対象の特性や場の特性に応じた看護を実践できる基礎的能力を身につける。

目 標

- 1 あらゆる医療活動の場におけるチーム医療および他（多）職種との連携協働を理解する。
- 2 看護をマネジメントする基礎的能力を習得する。
- 3 医療安全の基礎的知識を習得する。
- 4 既習の知識・技術を統合し，対象の状況に合わせた看護実践能力を習得する。

看護の統合と実践 科目構造



科目名	看護の統合と実践Ⅰ（各看護学における看護過程）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	3年
担当者名	本校職員						
ねらい	各看護学領域における対象特性や場の特性を踏まえた看護過程の特徴を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 小児における看護過程 1) 小児の看護過程の特徴 2) 小児看護の展開に必要な視点						講義 GW
3回	2 周産期における看護過程 1) 周産期の看護過程の特徴 2) 母性看護の展開に必要な視点						
4～6回	3 老年期における看護過程 1) 老年期にある対象の看護過程の特徴 2) 老年期にある対象の看護の展開に必要な視点 4 在宅における看護過程 1) 在宅看護における看護過程の特徴 2) 在宅看護の展開に必要な視点						
7回	5 精神における看護過程 1) 精神に障害をもつ対象の看護過程の特徴 2) 精神看護の展開に必要な視点						
(45分)							
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 各看護学領域のテキスト						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・各領域の対象特性を予習して臨むこと。 ・既修の看護の基本となる技術Ⅲ（看護過程）の復習をして臨むこと。						

科目名	看護の統合と実践Ⅱ（看護と研究）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある教育者）						
ねらい	看護実践を研究的な視点で考察する意義と、看護の発展のための看護研究の基礎的知識を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 看護研究とは 2 なぜ看護研究を学ぶのか 3 文献レビューとその方法 1) 文献の種類 (1)論文 (2)学術図書 2) 一次文献と二次文献 3) 文献レビューの目的 4) 文献検索の方法 5) 文献クリティーク (1)文献クリティークの意味と方法 4 研究における倫理的配慮						講義
3回	文献クリティークの実際						演習
4～6回	5 看護研究とケースレポートの関連 1) ケースレポートとは 2) 看護実践を振り返る意義 3) ケースレポートの進め方 (1)タイトル (2)はじめに (3)事例の紹介 (4)看護の実際 (5)考察（体験の振り返りと意味づけ） (6)結論（課題の明確化） (7)文献 6 看護研究の方法 1) リサーチクエスチョン 2) 研究デザイン 3) 研究計画書の作成 4) 論文発表の方法 5) 論文要約						講義
7回	論文要約の実際						演習
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験 レポートの内容 } 総合的に評価する。 レポートの提出状況課題への取り組み状況 }						
必須資料	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。 ・必要時、課題となる文献等は適宜準備する。						
履修上の留意事項	・課題論文を提示した場合は、各自読み込んだうえで授業に参加すること。 ・GW、演習には積極的な参加姿勢を望む。						

科目名	看護の統合と実践Ⅲ（看護管理，医療安全）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20時間)	対象 年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある看護師） 外部講師（実務経験のある看護師）						
ねらい	看護を看護師個人としての視点だけでなく，組織として統括・管理する立場から理解し，チーム医療を担う一員としての役割や態度，看護におけるマネジメントの基礎的知識を理解するとともに，安全な医療を提供するための医療安全の基礎的知識を理解する。						
回数	内 容						授業形態
< 看護管理 > 1～3回	1 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは (1)看護管理の定義 (2)看護管理学の基本的要素 2 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 (1)医療安全のしくみ (2)医療事故対策（インシデント，アクシデント，インシデントレポート） (3)院内感染対策 4) チーム医療 5) 看護業務の実践 (1)看護業務 (2)看護基準と看護手順 (3)情報の活用 (4)日常業務のマネジメント						講義
4・5回	3 看護サービスのマネジメント 1) 組織としての目標達成のためのマネジメント 2) 看護サービス提供のしくみづくり (1)看護単位 (2)看護ケア提供システム 3) 人材のマネジメント 4) 施設・設備環境のマネジメント 5) 物品のマネジメント 6) 情報のマネジメント 7) 組織におけるリスクマネジメント 8) サービス評価 4 マネジメントに必要な知識と技術 1) 組織とマネジメント 2) リーダーシップとマネジメント 3) 組織の調整						
< 医療安全 > 1回	1 ヒューマンエラーの概念（人はなぜ間違いを犯すのか） 2 医療事故と看護業務 1) 医療事故における2種類の過失 2) 医療行為に関連した事故と関連しない事故 3) 看護業務と看護事故の種類						

2・3回	<p>3 看護事故の構造</p> <p>4 看護事故防止の考え方</p> <p>1) してはならないことをしない</p> <p>2) するべきことをする</p> <p>5 患者に投与する業務における事故防止</p> <p>1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止</p> <p>2) 注射業務と事故防止</p> <p>3) 注射業務に用いる機器での事故防止</p> <p>4) 輸血業務と事故防止</p> <p>5) 内服与薬業務と事故防止</p> <p>6) 経管栄養(注入)業務と事故防止</p> <p>6 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止</p> <p>1) フォーブ管理と事故防止</p>	講義 GW
4・5回	<p>7 療養上の世話業務と事故防止</p> <p>1) 転倒転落事故防止</p> <p>2) 摂食中の窒息・誤嚥事故防止</p> <p>3) 異食行動防止</p> <p>4) 入浴中の事故防止</p> <p>8 業務領域を超えて共通する患者間違いと発生要因</p> <p>1) 業務領域を超えて共通する患者間違い</p> <p>2) 間違いを誘発する多重課題, タイムプレッシャーと業務途中の中断</p> <p>9 新人特有の危険な思い込みと行動パターン</p>	
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 統合 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院) 看護の統合と実践② 医療安全 第2版 (メディカ出版) 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 (メヂカルフレンド社)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。 ・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。	

科目名	看護の統合と実践Ⅳ（救急看護，災害看護，国際看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20 時間)	対象 年次	3 年
担当者名	外部講師（実務経験のある看護師） 外部講師（実務経験のある看護師）						
ねらい	救急・災害看護の特徴とその看護を実践する基礎的能力を習得するとともに，国際看護の基本理念とその概要を理解する。						
回数	内 容						授業形態
< 救急看護 > 1・2回	1 救急救命状況にある対象の特徴 2 救急救命処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 急変時の初期対応 (1)安全と状況の確認 (2)ABCD 評価 (3)症状の情報収集 (4)医師への連絡と救急処置準備						講義
3回	2 救急蘇生法 1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置 (1)気道確保 (2)呼吸の確認 (3)胸骨圧迫（心臓マッサージ） (4)人工呼吸 (5)AED による除細動 3) 二次救命処置 4) 院内急変時の対応						
< 災害看護 > 4～6回 (45分)	1 災害医療の基礎知識 1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康被害 3) 災害と感染制御 4) 災害医療の特徴 (1)災害医療実施のための体系的アプローチ（CSCATTT） (2)災害サイクルから考える災害医療 (3)我が国の災害医療対応の整備 (4)NBC 災害への対応 5) 災害と情報 6) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 2 災害看護の基礎知識 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護活動 3 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1) 急性期・亜急性期 2) 慢性期・復興期 3) 静穏期						

	4 災害時に必要な看護技術 1) 応急処置の原則 2) 止血法 3) 包帯法	
7・8回	BLS 講習・包帯法	演習
< 国際看護 > 1・2回	1 国際看護学とは 1) 国際看護学の定義 2) 国際看護学の対象 3) 国際看護学に関連する基礎知識 4) グローバルヘルス 5) 国際協力のしくみ 2 国際看護活動の実際 1) 文化を考慮した看護 2) 開発協力と看護 3) 国際救援と看護	講義
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 統合 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ】(医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・演習の時間は限られているので、積極的な参加態度を臨む。また、わからないところは積極的に質問し、技術習得に努めること。	

科目名	看護の統合と実践Ⅴ（状況設定演習Ⅱ）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	3年
担当者名	本校職員						
ねらい	複数の対象への対応や時間的制約の中での看護実践，多重課題など，複雑多岐化する看護現場に対応して，対象の状況に合わせて看護を考え，優先順位や状況を判断しながら看護を実践する基礎的能力を習得する						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 優先順位の決定と多重課題への対応 1) 多重課題とは 2) 多重課題の種類と回避する方法 (1) 予測できる課題と予測できない課題 (2) スケジューリング (3) 予測できる課題への対応 (4) 予測できない課題への対応 3) 多重課題発生時の対応の原則 4) 優先順位の理由と判断						講義
3～6回	2 対象の状況に合わせた看護実践 1) 課題の説明 多重課題が同時に発生する場面の事例をもとに，対象の状態やおかれている状況から優先順位を判断し対応する。 ・優先度1：重要度が高く緊急度も高い状況 ・優先度2：重要度は低い緊急度は高い状況 ・重要度は高い緊急度は低い。 ・重要度は低く緊急度も低い。						講義 GW
7～10回	2) ブリーフィング・実施・デブリーフィング						演習
11～15回	タスクトレーニング（反復技術練習）※ 卒業時到達度Ⅰ・Ⅱの技術 ・点滴静脈内注射の固定 ・全身清拭・寝衣交換 ・便器・尿器介助 ・経管栄養 ・採血 ・心電図モニター装着 等						技術練習
評価方法及び観点	レポート課題で評価する。						
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・グループワークや技術試験に向けた技術練習には積極的な授業姿勢を望む。・特に OSCE（客観的看護実践能力評価＝試験）の事前学習・練習はメイトと協力して臨むこと。なお，卒業時到達レベルⅠ・Ⅱの技術習得に不足がある場合は，自己練習のうえ，再試験を課すことがある。						

看護技術 教授内容マトリクス

	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	
日常生活援助技術Ⅰ～Ⅲ	環境	環境調整・整備 リウ交換	事故予防のための生活空間の工夫	手術後の環境整備	事故予防のための環境整備 転倒防止のための環境整備	事故予防のための環境整備	新生児の保育環境 感染防止・危険防止	生活空間の工夫 環境調整の支援	環境調整・整備
	清潔	全身清拭 口腔ケア 足浴・手浴 洗髪 陰部洗浄	寝たきり状態にある対象の洗髪・陰部洗浄	意識障害のある対象の口腔ケア	皮膚掻痒症の入りか 義歯の取扱い 機械浴の介助	歯磨き指導 乳幼児の爪きり 入浴・シャワー浴の介助	褥瘡の外陰部の清潔 沐浴 臍処置 乳房の手入れ	身だしなみを整える援助	対象に応じた全身清拭
	衣生活	衣類選択 寝衣交換	寝たきり状態にある対象の更衣	麻痺のある対象の寝衣交換	麻痺のある対象の寝衣交換	乳幼児の更衣	新生児の衣服 新生児の更衣 妊婦の衣服・腹帯(着帯)	場に応じた衣服の選択・更衣	対象に応じた衣類選択・交換
	排泄	便器・尿器の排泄の介助 腹部マッサージ おむつ交換 浣腸・摘便 導尿	膀胱留置カテーテル管理 自己導尿 浣腸・摘便	人工肛門の管理 人工肛門造設部の管理 膀胱留置カテーテル管理 自己導尿	おむつ交換 尿失禁の看護	排泄の介助 トイレットトレーニング 浣腸	悪露交換(外陰部消毒) 骨盤底筋トレーニング 子宮底の輪状マッサージ	排便コントロールの援助	対象に応じた排泄の介助
	移動姿勢	体位保持 良肢位の保持 車椅子への移送 車椅子の移送 体位変換 ストレッチャーの移乗 移送 廃用症候群予防	寝たきり状態にある対象の体位変換 機能訓練	牽引中・ギブス装着の看護 機能訓練 関節可動域運動 手術後の早期離床	移動介助(杖・車いす)	移動(抱っこ) 成長発達にあわせた遊び	妊産婦体操 産褥体操 インフォォーマの取扱い	行動低下のある対象の援助 活動療法 生活技能訓練	対象に応じた体位変換, 移動介助(杖, 車いす)
	睡眠休息	リグレーション			睡眠障害のある対象の援助		新生児の寝かせ方 褥瘡の休息	睡眠障害のある対象の援助	
食	食事介助 経管栄養法 経静脈栄養法 中心静脈栄養	胃瘻・腸瘻の管理 経管栄養法	嚥下障害のある対象の食事介助 胃管管理	嚥下障害のある対象の食事介助 麻痺のある対象の食事介助	離乳食摂取 おやつ摂取の介助	調乳・授乳方法 乳房マッサージ 搾乳	食行動に問題がある対象の援助		
看護の基本となる技術Ⅰ～Ⅴ	スクリーニング技術	身体計測 バイタルサイン測定 フィジカルゲザミネーションの基本 フィジカルアセスメントの方法 経皮的動脈血酸素飽和度の	呼吸器系のフィジカルアセスメント	意識レベルの測定 MMT ROM フィジカルゲザミネーション	高齢者の生活機能のアセスメント フィジカルゲザミネーション	乳幼児の体温測定・脈拍測定・呼吸測定	新生児のバイタルサイン測定 新生児の聴覚スクリーニング 新生児のタデムマスクリーニング		複数の対象のバイタルサインの測定 (優先順位の判断・決定)
	観察記録報告	観察・記録・報告の基本 経時的な記録の記載方法	関連職種との連携のための記録				母子健康手帳 出生届	ブレスコード 行動観察法 視覚的観察, 面接法, 参加観察	観察・記録・報告の基本 経時的な記録の記載方法
	安全安楽	医療事故防止 温電法 冷電法	在宅における感染予防 在宅看護におけるリスクマネジメント	患者取り違え防止	事故防止の工 視力低下のある対象の安全の援助 転倒転落防止	小児の年齢と理解度に応じた抑制と環境整備 ハット柵の取扱い	新生児の取扱い 盗難防止対策	保護室の使用 方法 代理行為 鍵の管理 抑制	医療事故防止 安全管理の技術 針刺事故防止対策 安全確保の技術
	看護過程	看護過程の基礎(理論・実際)							複数患者の看護実践 各領域の看護過程の特徴 割込状況の対処 優先順位の判断
	コミュニケーション	コミュニケーションの基本 ロールプレイング	療養者と家族との面接法 他職種との連携・協働	筆談・五十音表	難聴, 認知症, 言語障害のある対象とのコミュニケーション	対象年齢に応じたほめ方しかり方 子ども・母親・家族とのコミュニケーション	母子・家族とのコミュニケーション	コミュニケーション ブレスコード	対象・場・状況に応じたコミュニケーション, 他職種との連携と協働
指導技術	指導の基本 指導のブレスコード 対象(個人・集団)場と内容, 時期と方法 ロールプレイング	訪問技術	健康レベルに応じた指導 慢性疾患の患者指導	老年期の特徴をふまえた指導 リハビリテーション 家族に対する指導	小児の理解力に合わせた指導 家族に対する指導	沐浴指導 退院指導 調乳指導 結婚・家族計画に関する指導	生活指導 服薬指導	安全管理の技術 リスクマネジメント	

看護技術 教授内容マトリクス

	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
臨床判断	対象の状態の気づき 気づきに基づく実践	療養の場における気づき 気づきに基づく実践	健康障害時の対象の状態の気づき 気づきに基づく実践	加齢変化による対象の状態の気づき 気づきに基づく実践	成長発達に基づく気づき 気づきに基づく実践	産褥日数や日齢による生理的变化の気づき 気づきに基づく実践	精神症状による日常生活の変化の気づき 気づきに基づく実践	複数の対象の状態の気づき 気づきに基づく対象に合わせた実践
健康状態別看護Ⅰ～Ⅲ	体温	体温管理(高体温・低体温の予防)	手術後の体温管理	低体温の予防	乳幼児の体温管理	新生児の体温管理	保温	対象に応じたバイタルサインの測定
	呼吸循環	酸素療法 酸素ホンプの操作 吸入 口腔内吸引 鼻腔内吸引 気管内吸引 体位ドレナージ	循環器のバイタルアセスメント 在宅酸素療法 肺理学療法 吸引・肺痰ケア 非侵襲的換気	心電図 CVP測定 リハビリ管マッサージ 排痰ケア 人工呼吸器 胸腔ドレナージ 呼吸訓練	誤嚥性肺炎・窒息の予防ケア	乳幼児の呼吸観察 乳幼児蘇生法	新生児の呼吸観察 新生児蘇生法 ルゴリスム	飲水管理 救急蘇生法(气道確保・人工呼吸・心臓マッサージ)
	診察検査	経皮的動脈血酸素飽和度の測定 心電図 検体検査 静脈血採血 ドレーンカテーテルの管理 胃洗浄 造影 内視鏡検査	気管切開孔からの吸引	肺機能検査 心臓カテーテル生検 内視鏡手術 腹腔鏡下手術と術後の管理 輸液ホンプの管理 アトホンプの管理	臨死の徴候と看取りの看護 死後の処置	吸入(ネブライザー) 小児の採尿 小児の計測 アプレーション デистраクション 小児の診療介助 小児の検査・処置介助	妊婦の診察(腹囲・子宮底測定・胎動触診法) 新生児の計測・観察 黄疸の測定 アプガースコアの採点 胎盤計測 尿検査・尿比重	心理テスト 脳波 災害時の診療とその補助 トリアージ
	処置	褥創処置 胸腔・腹腔穿刺 骨髄穿刺 腰椎穿刺 死後の処置	褥瘡管理	簡易血糖測定 内視鏡検査 褥創予防	褥創処置	採尿・腰椎穿刺 骨髄穿刺	光線療法	電気ショック療法
臨床微生物	衛生的な手洗い スタンダードプリコーション PPEの脱着 無菌操作 滅菌物の取扱	療養者の感染防止(リブクマシメント) スタンダードプリコーション PPEの脱着	感染予防 衛生的な手洗い スタンダードプリコーション PPEの脱着	高齢者の免疫力と感染予防 衛生的な手洗い スタンダードプリコーション PPEの脱着	小児の感染防止 予防接種 受動免疫と能動免疫	新生児の感染防止		院内感染予防対策 災害時の感染予防
看護と薬理	筋肉注射 皮下注射 皮内注射 点滴静脈内注射の管理 輸液の管理 輸液ホンプの管理 直腸内与薬の挿入 経皮外用薬	薬物自己管理の援助 薬物療法(麻薬の取り扱い)	インスリンの自己管理 点眼 点鼻 輸液ホンプの管理 アトホンプの管理	高齢者の経口与薬 高齢者の輸液管理	小児の経口与薬 小児の点滴静脈内注射の管理	新生児の点眼 新生児の経口与薬(K2シロップ)	薬物自己管理の援助 服薬管理	点滴静脈内注射の管理 輸液の管理 輸液ホンプの管理

1年次 使用テキスト

区分	授業科目	出版社	テキスト
基礎分野	論理学	東信堂	作文の論理
	情報科学総論	医学書院	系統看護学講座 別巻 看護情報学
	看護情報学	医学書院 中央法規出版	系統看護学講座 別巻 看護情報学 看護に活かす文献検索入門
	看護に活かす数学化学	羊土社 照林社	生理学・生化学につながる面白い化学 やりなおし数学/物理
	心理学	医学書院	系統看護学講座 基礎 心理学
	社会学		なし
	教育学	医学書院	系統看護学講座 基礎 教育学
	倫理学 I	医学書院	医療概論
	人間関係論 I・II	医学書院 日本医療企画 日本医療企画	系統看護学講座 基礎 人間関係論 看護師のための7D ライフ心理学 看護師のための7D ライフ子育て・自分育て
	芸術		なし
専門基礎分野	解剖生理学 I・II・III・IV・V	医学書院 医学映像教育センター	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 生体のしくみ 標準テキスト
	病理学	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進① 病理学
	治療論	医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床検査
		医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学
		医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論
		ぎゅろ社	新体系看護学 別巻 治療法概説
	疾病の成り立ちと回復の促進	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進② 病態生理学
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学④ 血液・造血器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑤ 消化器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑥ 内分泌・代謝
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑦ 脳・神経
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑩ 運動器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑪ アルギン・膠原病・感染症
	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑮ 歯・口腔	
	臨床微生物	スーエル社	ビジョナル微生物学
	栄養と代謝	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能② 生化学
		医学書院	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能③ 栄養学
	看護と薬理	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学
医学書院 医学書院		系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
健康支援と社会保障制度	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉	
	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令	
	ぎゅろ社	公衆衛生がみえる	
	厚生統計協会	国民衛生の動向	
関係法規 I	新日本法規	看護六法	
	厚生統計協会	国民衛生の動向	
公衆衛生学 I	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生	
	厚生統計協会	国民衛生の動向	
基礎看護学	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学① 看護学概論	
	日本看護協会出版会	看護の基本となるもの ガーゼニア・ハンダーソン著	
	医学書院	看護のための人間発達学	
	現代社	看護覚え書 改訂 フォルダ・サイケナル	
	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	
	ぎゅろ社	看護がみえる③ フジ加7セメント	
	医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学① 看護学概論	
	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	
	サイオ出版	患者とのコミュニケーション	
日常生活援助技術 I・II・III	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	
	医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
臨床判断	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進② 病態生理学	
	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器	
	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器	
	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑤ 消化器	
	医学書院	症状別 看護過程 第4版 疾患別 看護過程 第3版	
地域・在宅看護論	医学書院	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤	
	医学書院	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤	
	医学書院	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤	
	医学書院	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤	
成人看護学	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学① 成人看護学総論	
	医学書院 ぎゅろ社	看護のための人間発達学 公衆衛生がみえる	
老年看護学	医学書院	系統看護学講座 専門 老年看護学	
	医学書院 ぎゅろ社	看護のための人間発達学 公衆衛生がみえる	
小児看護学	医学書院	系統看護学講座 専門 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論	
	医学書院 医学書院	看護のための人間発達学 公衆衛生がみえる	
母性看護学	医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学① 母性看護学概論	
	医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学② 母性看護学各論	
精神看護学	医学書院	系統看護学講座 専門 精神看護学① 精神看護の基礎	
	医学書院	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉	

2年次 使用テキスト

区分	授業科目	出版社	テキスト
基礎分野	運動生理学		なし
	英語	KINSEIDO	Check-Up! Basic English for Nursing
専門基礎分野	疾病治療論 V	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進② 病態生理学
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑧ 腎・泌尿器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑨ 女性生殖器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑫ 皮膚
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑬ 眼
	看護栄養学	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能③ 栄養学
		医学書院	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法
	臨床薬理	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進② 薬理学
		医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学
医学書院		看護学生のための薬理学ワークブック	
基礎看護学	看護と倫理	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学① 看護学概論
		医学書院	系統看護学講座 別巻 看護倫理
	看護の基本となる技術Ⅲ-1・2	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
		学研	看護過程の解体新書
		照林社	実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド (第2版)
	看護の基本となる技術Ⅴ	医学書院	看護がみえる④ 看護過程の展開
		医学書院	ゴードン看護診断マニュアル
	健康状態別看護Ⅰ	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学① 看護学概論
		医学書院	看護のための教育学
		医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論
		医学書院	周術期看護
	健康状態別看護Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学① 成人看護学総論
		医学書院	系統看護学講座 別巻 緩和ケア
		医学書院	緩和ケア
	健康状態別看護Ⅲ	医学書院	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ
		医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床検査
	健康状態別看護Ⅳ	医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ
	健康状態別看護Ⅴ	医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ
成人看護学	地域・在宅看護論援助論Ⅰ	医学書院	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践
		医学書院	公衆衛生が見える
	成人看護学援助論Ⅰ	厚生統計協会	国民衛生の動向
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学④ 血液・造血器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑦ 脳・神経
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑥ 内分泌・代謝
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑩ 内分泌・代謝
	成人看護学援助論Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑤ 消化器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑩ 運動器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑧ 腎・泌尿器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑨ 女性生殖器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑫ 皮膚
	成人看護学援助論Ⅲ	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑬ 眼
医学書院		系統看護学講座 専門 成人看護学⑭ 耳鼻・咽喉	
医学書院		系統看護学講座 専門 成人看護学⑭ 耳鼻・咽喉	
成人看護学援助論Ⅳ	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑭ 耳鼻・咽喉	
	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑭ 耳鼻・咽喉	
成人看護学援助論Ⅴ	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑭ 耳鼻・咽喉	
	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑭ 耳鼻・咽喉	
成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ	医学書院	症状別 看護過程 第4版	
	医学書院	疾患別 看護過程 第3版	
老年	老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	医学書院	系統看護学講座 専門 老年看護学
		医学書院	系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾病論
小児	小児看護学援助論Ⅰ	医学書院	系統看護学講座 専門 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論
		医学書院	系統看護学講座 専門 小児看護学② 小児臨床看護各論
母性	母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学② 母性看護学各論
		医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学② 母性看護学各論
精神	精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	医学書院	系統看護学講座 専門 精神看護学① 精神看護の基礎
		医学書院	系統看護学講座 専門 精神看護学② 精神看護の展開
		医学書院	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉

3年次 使用テキスト

区分	授 業 科 目	出版社	テキスト	
基礎	倫理学Ⅱ		なし	
	リラクゼーション		なし	
専門基礎	地域包括時代の社会福祉	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉	
	保健医療論	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度① 総合医療論	
	関係法規Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令	
		メディカルライ	公衆衛生が見える	
		新日本法規	看護六法	
		厚生統計協会	国民衛生の動向	
公衆衛生学Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生		
	メディカルライ	公衆衛生が見える		
専門分野	地域在宅 母性	地域・在宅看護論援助論Ⅱ	医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践	
		母性看護学援助論Ⅲ	医学書院 系統看護学講座 専門 母性看護学① 母性看護学概論	
	看護の統合と実践Ⅰ	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	
		メディカルライ	看護がみえる④ 看護過程の展開	
		医学書院	系統看護学講座 専門 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論	
		医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学① 母性看護学概論	
		医学書院	系統看護学講座 専門 老年看護学	
		医学書院	系統看護学講座 専門 精神看護学② 精神看護の展開	
		看護の統合と実践Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門 看護学概論
			医学書院	系統看護学講座 別巻 看護研究
		看護の統合と実践Ⅲ	医学書院	系統看護学講座 専門 看護の統合と実践① 看護管理
			日本看護協会出版会	学習課題とケースで学ぶ看護マネジメント入門
	看護の統合と実践Ⅳ	医学書院	系統看護学講座 専門 看護の統合と実践② 医療安全	
		医学書院	系統看護学講座 専門 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学	
		医学書院	系統看護学講座 別巻 救急看護学	
		医学書院	系統看護学講座 別巻 クリニカル看護学	
	看護の統合と実践Ⅴ	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	
		医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	